

5 試験研究

5.1 担当の活動概要

(1) 温暖化対策担当

気候変動は、今や最も重要なかつ困難な環境問題として認識されている。気候変動は、単に気温が上昇するという現象に止まらず、降水量や台風の頻度や規模など、他の気象現象も変化させるとともに、自然環境や健康、農業など人間の生活基盤や生態系など様々な分野に影響を与える。かつて、気候変動の影響は北極海における急激な氷の減少や、海面上昇による低海拔島嶼への浸水など、日本から離れた場所で顕在化していると捉えられていたが、近年徐々に日本や埼玉県など中庸な気候の地域にもその影響は広がりつつある。

埼玉県は国内でも特に夏場の気温が高い地域として知られている。2007年8月16日には最高気温40.9℃を記録し、当時の日本の最高気温を74年ぶりに更新した。また、長期的にも気温は上昇し、熊谷気象台の年平均気温の上昇率は約2℃/100年を記録している。特に1980年以降の気温上昇は激しく、2014年までの上昇率は4.9℃/100年となっている。このような急激な気温上昇は、地球規模の気候変動だけではなく、急速に進んだ都市化によるヒートアイランド現象との複合影響だと考えられるが、実態として気温は上昇し、農作物や自然環境への影響も顕在化しつつある。

埼玉県ではこれまでも地球温暖化対策地域推進計画等に基づき、様々な温暖化対策やヒートアイランド対策を実行してきた。平成21年2月には、「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050 - 埼玉県地球温暖化対策実行計画 - (ストップ温暖化ナビ)」を策定し、中期的な温室効果ガス削減目標を示し、施策を推進してきた。また、平成21年3月には「埼玉県ヒートアイランド現象対策ガイドライン」を策定し、具体的なヒートアイランド現象対策を提示した。さらに、平成23年からは県独自の取り組みとして目標設定型排出量取引制度もスタートさせた。この様に、埼玉県は温室効果ガス排出量を削減する対策である緩和策に積極的に取り組んできた。しかし、IPCC評価報告書では、様々な対策を実施したとしても今世紀末までに気温上昇は止まらないとしており、温暖化影響はもはや避けられず、自治体にも、緩和策だけではなく、温暖化による影響を軽減する適応策への取り組みが求められている。

埼玉県は、平成21年に策定した「ストップ温暖化ナビ」に適応策をいち早く位置づけ適応策にも取り組んできた。また、環境科学国際センターでは平成22年から、環境省の適応策研究である環境研究総合研究費S-8「温暖化影響評価・適応策に関する総合的研究」に参加し、埼玉県庁温暖化対策課と共同で適応策の施策への実装に取り組み、平成27年に改訂した温暖化対策実行計画では、「適応策の主流化」と「適応策の順応的な推進」を新たに位置づけることが出来た。

現在、温暖化対策担当では、以前から実施してきた二酸化炭素などの温室効果ガスモニタリングやヒートアイランド現象実態調査、埼玉県の温室効果ガス排出量推計に加え、文部科学省が平成27年度から開始した、「気候変動適応技術社会実装プログラム(SI-CAT)」に参加し、さらなる適応策の推進と、ヒートアイランド現象緩和研究に取り組んでいる。

(2) 大気環境担当

埼玉県は首都圏の北側に位置し、大気汚染物質の固定及び移動発生源の影響を強く受ける地域である。さらに、その地理的条件により、光化学大気汚染も著しい。最近の諸施策により、従来環境基準達成率が低かった二酸化窒素や浮遊粒子状物質の達成率は向上し、ともに平成19年度以来環境基準をほぼ100%達成し継続している。しかし、光化学オキシダントの環境基準の達成率は依然として0%の状態が続いており、光化学スモッグ注意報の発令日数は全国でも常に上位であることから埼玉県における重要な課題となっている。また、微小粒子状物質(PM_{2.5})については、測定局を年々増やして監視を続けているが、その環境基準達成率は、平成23年度から26年度にかけて0%、50%、12%、29%、86%(測定局数は6局、12局、25局、35局、43局)と先行きが読めない状況で、今後一層の濃度低減が求められている。このほか、長期的暴露による健康影響という観点から、様々な大気中の有害化学物質も注目されている。

大気環境担当の主な活動は、埼玉県というフィールドを対象に環境モニタリングを行い、様々な大気汚染物質について現況把握、特性解析、行政施策効果の評価を行うことである。このほか環境制御という観点から、大気汚染物質の新規除去装置の開発、既存の排出低減策の整理とその効果の評価も対象となる。

埼玉県5か年計画(安心・成長・自立自尊の埼玉へ)と環境基本計画に掲げる大気環境保全施策の指標として、光化学スモッグの原因物質である揮発性有機化合物の排出量削減が設定されている。これは、この取組によって、光化学オキシダントやそれに関連して増加する微小粒子状物質の低減を目指すものである。このような状況の下、大気環境担当では、光化学大気汚染を重点的な対象として取り上げ、独自の自主研究課題、あるいは環境部大気環境課等と連携した行政令達課題として、

その原因物質である揮発性有機化合物や窒素酸化物の排出削減及び環境動態、生成物質であるオゾンや微小粒子状物質の環境動態を総合的に調査研究している。広域大気環境に関しては、酸性雨の構成化学成分の動態解析を続けている。また、環境基本計画に掲げられている重点取組施策である石綿の飛散防止に関しても、新たな汚染を引き起こさないための監視という面で行政を支援している。このほか、行政令達課題として、有害大気汚染物質、各種化学物質等のモニタリングを行うとともに、県や市町村の行政現場での案件解決のための支援を行っている。これらの研究遂行のため、国立環境研究所、早稲田大学、北海道大学ほか多くの大学、近隣の地方環境研究所、民間企業等と連携している。

(3) 自然環境担当

人類は、自然から多くの恵みを受け取り、生存している。大気中の酸素はもちろん、豊かな海や土壌、人間の食料もそのほとんどが自然からの恵みによるものである。近年、環境汚染や温暖化、開発などの様々な要因により自然環境が劣化し、自然からの恵みを支える生物多様性が失われつつある。このような状況下で、人類が生命を維持し存続するためには、生物多様性を保全するとともに、自然との共生を図ることが必要不可欠である。特に首都圏にある埼玉県では都市化が進みつつあり、自然との共生は重要な課題である。

自然環境担当では、「生物多様性に富んだ自然共生社会の形成」を目指し、環境部みどり自然課や大気環境課等と連携し、主に3つの側面（「希少野生生物の保全に関する調査・研究」、「環境ストレスによる植物影響研究」及び「自然環境データベースの構築と運用」）から自主研究や外部資金研究、行政令達事業等を進めている。

平成27年度は、自主研究課題として、「光化学オキシダントと高濃度二酸化炭素が埼玉県の水稻に及ぼす単独および複合的な影響の評価」や「資源植物による汚染土壌の修復効果にみられる品種間の差の評価」といった環境ストレスによる植物影響に関連する研究とともに、「自然環境データベースのGISによる構築・運用 - 森林変遷の把握と温暖化緩和機能の評価 - 」や「埼玉県における希少野生動植物の保全に関する基礎的調査研究」といった自然環境データベースや希少野生生物の保全に関連した研究に取り組んだ。

外部資金研究としては、日本学術振興会科学研究費補助事業の研究代表者として、「高濃度二酸化炭素環境下におけるオゾンが水稻に及ぼす影響とその品種間差の要因解明」と題した研究に取り組んだ。また、同事業の研究分担者として、「農山村地域の空洞化回避を主目的に据えた鳥獣害の動向予測と実効的管理体制の提言」、「経済的利用により劣化した東アジアおよびロシア極東地域の食肉目個体群の復元技術開発」、「東南アジアにおける水銀利用による環境汚染の回復と持続的産業発展に関する研究」、「持続的水環境保全に向けた中国山西省における生物による水質調査と環境教育への適用」等と題した研究事業に参画し、これらの研究を通して国際共同研究にも取り組んだ。さらに、他機関との連携では、国立環境研究所との 型共同研究「植物の環境ストレス診断法の確立と高度化に関する研究」を実施した。

行政令達事業では、みどり自然課が所管する事業として、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」による指定種（ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ、ソボツチスガリ、アカハライモリ等）を保全する「希少野生生物保護事業」、奥秩父雁坂峠付近の亜高山帯森林においてシカの食害調査や気象観測を行う「野生生物保護事業」、県内における外来生物の生息・生育状況を把握する「侵略的外来生物対策事業」等に取り組んだ。また、大気環境課が所管する事業として、光化学オキシダントによる植物影響を調査する「大気汚染常時監視事業」に取り組んだ。

自然環境担当では、調査・研究事業や行政令達事業のみならず、大学及び大学院での講義や、環境学習関連の用務にも積極的に取り組み、県民参加の自然環境調査や小学校での総合学習の支援、出前講座や自然観察会の講師等も行った。また、他機関からの調査依頼への対応や、中国を対象とした国際貢献事業の支援を行った。

(4) 資源循環・廃棄物担当

資源循環・廃棄物担当の業務は、産業廃棄物及び一般廃棄物に関する国や埼玉県が推進する循環型社会形成に向けた施策の支援、並びに、埼玉県が直面する廃棄物の諸問題を解決するための調査・研究である。

行政令達業務としては、廃棄物の排出、中間処理、最終処分の適正化、再資源化の推進に必要な技術支援に加え、不法投棄を含めた廃棄物の不適正処理に伴う環境保全上の支障の除去あるいは低減化を、産業廃棄物指導課、資源循環推進課、環境整備センター及び各環境管理事務所と連携を図りながら行っている。最終処分場の管理に関する業務、産業廃棄物の山についての調査・対策、一般廃棄物の不燃ごみ・粗大ごみの適正処理の検討を継続しており、不適正処理関連では建設廃棄物不法投棄現場の調査等の技術的な側面からの支援を行った。

研究業務としては、廃棄物の焼却処理や破碎選別処理、リサイクル、並びに最終処分について、安全・安心、さらには地球温暖化防止のための調査・研究を継続している。最近では、今後も排出量の増加が予想されるアスベストに関して、将来的な健康被害防止の観点から研究を行ってきた。最終処分関連では、埋立地から漏出する可能性の高い化学物質を安全で安心

に処理するための埋立資材の開発、リサイクル推進に伴う埋立廃棄物の質的变化に対応する埋立技術を研究してきた。また、不適正処理による生活環境保全上の支障の評価、廃棄物の撤去方法、有害物質による汚染範囲や有害ガス発生状況の現場での迅速判定、あるいは継続モニター等の技術開発を積極的に行ってきた。

自主研究事業として、最終処分場の跡地を太陽光発電に利用した場合の浸出水量への影響を調査する「ソーラー発電設備設置が処分場表面からの蒸発水量に与える影響に関する研究」、埋立廃棄物の質の違いによる安定化評価について室内及び実証実験を行う「循環型社会における埋立廃棄物の安定化評価に関する研究」を開始した。

また、これらの研究の一部を文部科学省や環境省からの外部資金で実施しており、「プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究」を継続するとともに、国立環境研究所を研究代表とする「廃棄物の焼却処理に伴う化学物質のフローと環境排出量推計に関する研究」を新たに開始した。さらに、「不燃ごみに混入する化粧品、医薬品等の残存内容物の把握と埋立地管理への影響」、「将来の埋立廃棄物の変質を見据えた最終処分場における埋立廃棄物の安定化評価」についても研究を開始した。

さらに、JSTとJICAの共同事業である地球規模の環境問題課題の解決に資する研究(SATREPS)「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」では、研究成果の公表以外にも関係者の能力向上を含めた国際貢献を、日本側研究機関に加えて相手国の大学、研究所、官庁等とともに連携して行った。

(5) 化学物質担当

埼玉県環境基本計画では、「環境負荷の少ない安心・安全な循環型社会づくり」に係る施策の一つに「化学物質対策の推進」を掲げており、化学物質の適正管理による環境リスクの低減、化学物質に関する正しい情報共有・相互理解の推進を目的としている。化学物質担当では化学物質対策に関する行政的方向性を踏まえ、ダイオキシン類や残留性有機汚染物質などの化学物質に関する情報収集、環境濃度レベルの把握、計測技術等の改良・開発に関する調査・研究を実施している。近年では環境中で分解されにくい化学物質や未規制の有害化学物質による環境汚染、生態系への影響などが懸念されているため、これらの化学物質に関する環境動態・汚染機構の解明、環境リスク評価なども含めた総合的調査・研究にシフトしてきている。

自主研究事業は、河川水中のネオニコチノイド系殺虫剤濃度の長期的な変動と検出地域における農業活動や気象条件との関連性を把握するため「河川水中ネオニコチノイド系殺虫剤濃度の年間変動」、有機ハロゲン難燃剤(ヘキサブロモシクロドデカン、デクロランプラス)による県内の大気、水、底質の環境汚染実態を把握するため「県内における有機ハロゲン難燃剤の汚染実態の把握」、環境残留性や生物蓄積性が懸念されている環状シロキサンの発生源・大気環境汚染レベル等を把握し、環境影響評価に資するため「揮発性メチルシロキサンの大気汚染実態の把握」を実施した。

外部研究費による研究(代表)は、「水環境におけるPFOS、PFOAの前駆物質の生分解挙動に関する研究」、「ネオニコチノイド系殺虫剤の下水処理場からの排出実態解明と河川水における排出源解析」、「揮発性環状メチルシロキサン分析法に関する国際標準化」を実施した。一方、外部研究費による研究(分担)は、国立環境研究所、産業技術総合研究所や地方自治体の環境研究機関と連携し、「精密質量データ解析法の開発と環境化学物質モニタリングへの応用」、「河川生態系への影響が心配な神経毒性農薬の汚染実態と水生昆虫による生態影響試験開発」、「第三の極における強太陽光照射が有害物質長距離輸送に与える影響評価研究」、「廃棄物の焼却処理に伴う化学物質のフローと環境排出量推計に関する研究」を進めた。

行政令達事業は、環境監視業務として古綾瀬川のダイオキシン類汚染対策事業に係る表層底質等のダイオキシン類濃度調査、発生源周辺等のダイオキシン類環境調査(大気、土壌)、及び工業団地周辺における大気中揮発性有機化学物質等の調査を行った。法規制業務としては、ダイオキシン類発生源調査(排水、排ガス、ばいじん等)を行った。また、野鳥の不審死の原因を調べるため農薬などの分析検査も実施した。さらに、環境部各課や各環境管理事務所が委託した民間分析業者によるダイオキシン類の行政検査結果について、書類精査や立ち入り調査などによる品質管理を行った。

環境国際貢献では、タイ国環境研究研修センターダイオキシン研究所の職員に対して排ガス、焼却灰中のダイオキシン類の分析測定技術を指導した。また、JICA草の根技術協力事業(地域経済活性化特別枠)「セルビア国の残留性有機汚染物質の分析体制強化・排出削減対策プロジェクト」において、セルビア・ベオグラード大学の教員に対し、化学物質問題に関する講義・情報交換を行った。さらに環状シロキサン分析法の国際標準化を目指すため、関連する工業会と協調し、ISO国際会議で規格案について審議した。

(6) 水環境担当

埼玉県は、県の面積の約3.9%を河川が占めており、その割合は都道府県の中で1位であることから、県民誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現するための事業を展開している。河川環境については、かつて典型的な公害問題となっていた水質汚濁は大幅に改善され、有機汚濁の指標であるBODから見た環境基準達成率はおおむね90%付近

で推移していて、全国と比較しても同等なレベルまで達している。一方、平成24年度に見直し策定された「埼玉県環境基本計画」では、長期的な目標として「再生したみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり」が設定され、平成28年度までの施策指標として、公共用水域ではアユがめぐる水質（BOD3mg/L以下）の河川の割合が90%、綾瀬川・中川水質ランキングのワースト脱却が示された。

水環境担当では、行政の施策支援及び新たな水環境問題への対応を目標に調査研究に取り組んでいる。公共用水域では、河川の水環境基準点における水質調査を継続して実施しており、平成27年度は柳瀬川（栄橋）のBOD環境基準超過に係る追跡調査に協力し、基準超過の原因究明及び対策に必要な情報を提供することができた。工場・事業場の排水水について、一部試料を委託業者とクロスチェック分析を行うことで結果の信頼性を担保している。また、例年行っている県内の計量証明事業者等を対象にした精度管理事業は、45機関（当センターを含む）の参加を得て、BOD、COD及びふっ素の標準試料を一斉に分析する形式で実施した。

研究事業では、水環境の汚濁特性に関する研究として、河川での内部生産現象の実態解明と影響評価及び浮遊細菌叢からの新たな汚濁指標の開発を実施した。これら研究を推進するために、大学、企業、地方環境研究所と連携するほか、外部競争的資金への応募を積極的に行い、科研費等を獲得する実績を上げている。研究成果は国内及び海外での学会発表や学術誌等で公表している。また、国際貢献活動では、中国環境技術セミナーに研究員を派遣し、湖沼管理に関する講義指導を行ったほか、平成25年度から3年間の計画で実施してきた山西省水環境保全モデル事業の最終年度であるため、平成28年3月に太原理工大学において、晋城市の沁河及び丹河を対象に水質浄化及び生態系保全に関する共同プロジェクトの成果報告会を開催した。

（7）土壌・地下水・地盤担当

土壌・地下水・地盤担当が所掌する業務内容は、地質地盤情報の整備と情報提供、土壌・地下水汚染の未然防止と地下水常時監視事業の技術的支援、地中熱利用システムのための地下環境情報整備、物理探査を利用した地下構造調査手法の確立、騒音振動公害に関する調査などに分けることができる。このうち、については水環境課土壌・地盤環境担当、については環境政策課エネルギー・放射線担当や産業労働部産業支援課担当、そしてについては水環境課及び市町村と連携して、行政課題の解決に役立つ研究や技術情報の提供などを実施している。

担当としての目標は、まず第一に、県内各地域の自然由来問題の地域特性と汚染メカニズムを把握すること、さらには地盤変動と地下水利用との相互関係などを解析し、新しい環境監視を実現するための方法論を確立することである。そして、第二に、地中熱エネルギー貯存量、現有技術、最新技術、経済性及び自然や社会への影響評価等から、本県の地中熱利用エネルギーのポテンシャルを解析し、普及に役立つ情報を一般向けに提供することである。外部機関との連携活動としては、産業技術総合研究所、秋田大学、東京大学と地下水や地下熱に関する研究を共同で実施している。一方、外部資金活用については、科学研究費補助金による助成を受けた研究課題として、「地質地下水統合型地下環境情報システムの構築とそれを利用した地下水の最適管理」、「鉄酸化物分別溶解法を用いた土壌から地下水への砒素溶出メカニズム解析手法の開発」、そして「関東平野における地下熱汚染の把握と将来予測」などを実施している。

今年度においては、地中熱利用システムによる環境や社会への影響評価に関する自主研究業務、並びに地下水常時監視、土壌・地下水汚染防止、そして騒音・振動の防止に関する行政令達業務に取り組んだ。

（8）環境放射能担当

平成23年（2011年）3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質は、ブルームとして大気中を移動し、降雨等により、土壌、水、植物、建物を汚染した。その影響は、約200km離れた本県にも及び、三郷市、吉川市が放射性物質汚染対処特措法の汚染状況重点調査地域に指定された。県では、環境基本計画に“放射性物質による環境汚染への対応”を盛り込み、放射性物質の測定や放射線量の低減を優先的に取り組むべき課題として位置づけた。環境部では、放射線の監視体制を強化するため、空間放射線量を監視するモニタリングポストを6ヶ所に設置して24時間連続測定している。また、サーベイメーターによる校庭等県内24ヶ所の空間放射線量を測定しているほか、ゲルマニウム半導体検出器による各種環境試料のガンマ線放出核種測定を行っている。

環境科学国際センターでは、「放射性物質による汚染状況の把握等に関する研究」を研究所中期計画の重点課題に対応する特定研究の1つに位置づけている。平成24年3月にゲルマニウム半導体検出器を整備し、平成24年度から担当職員1名の暫定配置を得て、環境試料の放射性核種分析を開始した。放射線の監視業務は、当初、土壌・地下水・地盤担当の所掌として開始したが、平成25年度から環境放射能担当として独立した組織が担当することとなり、担当職員1名と兼務職員2名及び非常勤嘱託職員1名による体制で対応している。

平成27年度に実施した業務は、県単独の事業として、公共用水域環境基準点の河川水及び底質(各6地点)、環境科学国際センター生態園の土壌(3地点、表層下0-5cm及び5-20cm)及び底質(1地点)の各試料について、ゲルマニウム半導体検出器を用いた核種測定を行った。また、原子力規制庁の委託事業として、大気浮遊じん(1地点、毎月3回、3ヶ月分をまとめて1検体)、土壌(1地点、表層下0-5cm及び5-20cm)について、ゲルマニウム半導体検出器を用いて核種測定したほか、分析比較試料(模擬土壌、模擬牛乳、寒天)による機器校正に参加した。その他に、平成28年1月6日の北朝鮮の地下核実験に対応する監視体制の強化として大気浮遊じんの採取、核種測定を行った。平成26年度から実施している、「生態園をモデルとした放射性物質の分布及び移行に関する研究」については、昨年度に引き続き当所生態園における土壌、昆虫、植物など放射性物質の移動に関与すると考えられる各種媒体ごとの濃度把握を行った。

5.2 試験研究事業

5.2.1 自主研究

(17課題)

テーマ名・期間	目的	担当者	概要
自然環境データベースのGISによる構築・運用 - 森林変遷の把握と温暖化緩和機能の評価 - (平成25～27年度)	埼玉県を対象とした地理情報システム(GIS)による自然環境データベースのさらなる充実を図るとともに、構築したGISデータベースを用い、埼玉県の詳細な森林の実態や変遷を把握する。また、森林等の温暖化緩和機能を評価する。	嶋田知英 三輪誠	107頁
埼玉県における温暖化に伴う気候変動と極端気象に関する研究 (平成27～28年度)	埼玉県の気温は上昇し、農業や健康分野、自然環境などに様々な影響も出始めている。しかし、埼玉県における長期的な気象の変化や、極端気象に関する情報は十分整理されていない。そこで本研究では、過去の気象データを収集し、埼玉県における気候変動と、極端気象情報を整理・解析する。	原政之 嶋田知英 武藤洋介	108頁
光化学反応によるBVOC由来生成物の測定手法の構築と埼玉県における現況把握 (平成25～27年度)	微小粒子状物質(PM _{2.5})の原因物質の一つである揮発性有機化合物(VOC)のうち、植物由来のVOC(BVOC)の動態やPM _{2.5} 生成への寄与はまだ十分に把握されていない。そこで、BVOCの光化学反応により生成するPM _{2.5} 中の指標化合物について測定・分析手法を構築し、本県における現況を把握する。	佐坂公規 梅沢夏実 松本利恵 米持真一 長谷川就一 野尻喜好	109頁
微小エアロゾル長期観測試料中の金属元素成分の検討 (平成27～29年度)	2000年および2005年からPM _{2.5} とPM ₁ の週単位採取を、2009年からはPM _{2.5} 日単位採取を継続している。本研究では高濃度期の金属元素成分に着目することで、関連研究である中国、韓国および富士山頂の試料と比較検討し、越境大気汚染や国内汚染について評価する。	米持真一 梅沢夏実 松本利恵 佐坂公規 長谷川就一	110頁
地域汚染によるPM _{2.5} の発生源寄与推定に関する研究 (平成27～30年度)	埼玉県におけるPM _{2.5} (微小粒子状物質)は、地域汚染の影響が大きいことが示唆されているため、地域の発生源対策を立てるには、越境汚染と地域汚染を区別し、地域汚染の発生源寄与を把握する必要がある。そこで、PM _{2.5} の常時監視・通年観測データや成分測定データ、また発生源粒子の成分測定データを取得・解析し、地域汚染の発生源寄与割合を推定する研究を行う。	長谷川就一 米持真一 梅沢夏実 松本利恵 佐坂公規	111頁
資源植物による汚染土壌の修復効果にみられる品種間の差の評価 (平成25～28年度)	汚染土壌の修復技術として注目されるファイトレメディエーションでは専用植物が使用されてきた。本研究では、専用植物の代わりに、トウモロコシ、ヒマワリ、大豆を中心としたバイオ燃料等として利用可能な資源植物を活用することとし、その修復効率の違いを評価する。品種毎に栽培試験を行うことにより、環境修復に最適な品種を選定することを目的とする。	王効拳 米持真一 磯部友護 細野繁雄 三輪誠 米倉哲志 金澤光	112頁
光化学オキシダントと高濃度二酸化炭素が埼玉県の水稻に及ぼす単独および複合的な影響の評価 (平成26～28年度)	大気中の二酸化炭素が高濃度化した環境下において、光化学オキシダントの主成分であるオゾンの水稻の収量に及ぼす影響が変化するかを明らかにし、クリティカルレベルの評価を行う。	米倉哲志 王効拳 嶋田知英 三輪誠	113頁
埼玉県における希少野生動植物の保全に関する基礎的調査研究 (平成27～29年度)	埼玉県では、生物多様性保全の一環として、絶滅が危惧されている希少野生動植物についてレッドデータブックを作成し、それらの保護を推進している。本研究では、これらの種に関する県内での分布や生育・生息状況等の基礎的情報を収集し、データベースを構築する。また、それらのデータを解析し、県内における希少野生動植物に関する現況を把握する。	三輪誠 角田裕志 米倉哲志 王効拳 金澤光 嶋田知英	114頁

テーマ名・期間	目 的	担 当 者	概要
循環型社会における埋立廃棄物の安定化評価に関する研究 (平成27～29年度)	埼玉県における今後の埋立廃棄物の質的变化を見据え、廃棄物層内の溶出等の安定化挙動を把握することを目的とし、埋立廃棄物の配合を変えた実験層で各種モニタリングを行う。	磯部友護 渡辺洋一 長森正尚 川崎幹生 長谷隆仁 鈴木和将	115頁
ソーラー発電設備設置が処分場表面からの蒸発水量に与える影響に関する研究 (平成27～29年度)	近年、廃棄物最終処分場におけるソーラー発電が進んでいる。通常、太陽光エネルギーの一部は地表面に到達して水分蒸発に寄与するが、ソーラー発電によるエネルギー利用が蒸発量等の処分場水収支に影響すると予想される。そこで、発電設備設置による蒸発散量への影響を把握する。	長谷隆仁	116頁
河川水中ネオニコチノイド系殺虫剤濃度の年間変動 (平成26～28年度)	河川水中のネオニコチノイド系殺虫剤濃度の長期的な増減傾向と検出地域の拡大縮小傾向及び農業活動や気象条件との関連性を把握する。本研究では、ネオニコチノイド系殺虫剤と同様に生態系への影響が懸念されるフィプロニルとスルホキサフロルも新たに測定対象とした。	大塚宜寿 野尻喜好 蓑毛康太郎 茂木守 堀井勇一	117頁
県内における有機ハロゲン難燃剤の汚染実態の把握 (平成26～29年度)	有機ハロゲン難燃剤(ヘキサプロモシクロドデカン、デクロランプラス)による県内の大気、水、底質の環境汚染実態を把握する。	茂木守 蓑毛康太郎 大塚宜寿 堀井勇一 野尻喜好	118頁
揮発性メチルシロキサンの大気汚染実態の把握 (平成27～29年度)	欧米で優先して環境リスク評価が取り組まれている揮発性メチルシロキサンについて、大気中濃度の測定法を確立し、県内大気の大気汚染実態を把握する。	堀井勇一 蓑毛康太郎 大塚宜寿 茂木守 野尻喜好	119頁
浮遊細菌の構成種から見た埼玉県内河川の水質特性評価 (平成26～28年度)	浮遊細菌の構成種は、物理化学的な環境パラメーターに敏感に反応し、その組成が変化するため、新たな河川水質特性評価指標としてその有効性が期待できる。本研究では、河川における浮遊細菌の構成種の把握および河川水質特性との関連性を明らかにし、新たな水質指標としての可能性を探る。	渡邊圭司 池田和弘 柿本貴志 見島伊織 高橋基之	120頁
富栄養化河川の水質シミュレーションと河川管理手法の検討 (平成27～29年度)	埼玉県内には藻類が非常に高濃度になる河川が存在するため、その制御方法についての検討が必要である。本研究では水質予測モデルを構築し、栄養塩濃度と藻類濃度の関係について明らかにすると共に、河川水質管理方法について検討を行う。	柿本貴志 池田和弘 見島伊織 渡邊圭司	121頁
地中熱利用システムによる環境や社会への影響評価 (平成27～29年度)	埼玉県において地中熱エネルギーの利活用が今後増えることが予測される。そこで環境や社会への影響を評価することで、適切な設置方法等を提案するとともに、CO ₂ の削減効果などを推定する。	濱元栄起 八戸昭一 石山高 白石英孝 嶋田知英 渡邊圭司 山崎俊樹	122頁
生態圏をモデルとした放射性物質の分布及び移行に関する研究 (平成26～29年度)	東日本大震災に伴う原子力発電所事故によって大気中に放出された放射性物質は、本県にも影響を及ぼした。そこで本研究では、環境中での放射性物質の分布、輸送、蓄積等の実態把握を目的に、当所の生態圏をモデルとして、土壌、植物など各種環境媒体中の放射性物質濃度の調査を実施する。また将来的には、集積データを解析して、放射性物質の環境動態の解明を試みる。	山崎俊樹 米持真一 白石英孝 小林良夫 嶋田知英 三輪誠 細野繁雄	123頁

5.2.2 外部資金による研究事業

(33課題)

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
環境省 環境研究総合推進費 (平成27年度～29年度) 研究代表:(国研)国立環境研究所 その他連携先:日本産業廃棄物処理振興センター、静岡県立大学、環境資源システム総合研究所	「廃棄物の焼却処理に伴う化学物質のフローと環境排出量推計に関する研究」 産業廃棄物焼却処理からの化学物質の排出量推計の試行とその推計手法および基礎データの提示を行う。 渡辺は、廃棄物および含有化学物質のマテリアルフロー推計のための焼却残渣等の廃棄物の含有化学物質のデータ取得等を、堀井は、排出係数の多面的な検証と作成を行うための排ガス実測による化学物質排出データ取得等を分担する。	渡辺洋一 堀井勇一	124頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成25～27年度) 研究代表:(公財)産業廃棄物処理事業振興財団 その他連携先:九州大学、京都大学、長崎大学、長野県立短期大学、前田建設工業(株)	「プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究」 プラスチック等が混入した廃棄物地盤の力学特性や環境特性を明らかにし、その評価法を提案し、適切かつ経済的な廃棄物地盤の利用及び構築(例えば発電風車等)の可能性について検討することを目的とする。	川寄幹生	124頁
文部科学省 気候変動適応技術社会実装プログラム (平成27～31年度) 研究代表:(国研)海洋研究開発機構 その他連携先:九州大学、筑波大学	「埼玉県の気候変動による課題を踏まえた、適応策に資する技術開発とその実装」 温暖化適応策の社会実装を推進するため、海洋研究開発機構や国立環境研究所など温暖化予測技術開発機関と協力し、地域の気候予測や解析技術の開発・適用を進める。また、埼玉県で問題となっている暑熱環境改善のため、広域緑地等の暑熱環境影響評価や、街区スケールで暑熱対策を行う際の評価を行う。	嶋田知英 原政之 武藤洋介 三輪誠	125頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～29年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:(国研)産業技術総合研究所	「機動観測を可能とする短時間計測地震波干渉法の開発」 本研究は、地震災害や資源探査等で使われる地下探査技術の一つ、地震波干渉法について、その適用範囲を拡大する新理論の導出及び新たな解析法の開発を行うことを目的としている。	白石英孝 (代表) 八戸昭一 石山高 濱元栄起	125頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成25～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:北海道大学、(地独)北海道立総合研究機構環境科学研究センター、ほか8機関	「広域測定網における大気汚染測定フィルターの再利用による光学的黒色炭素粒子の測定」 地方自治体の既存の観測網で用いられた分析済の大気汚染測定フィルターを測定試料として再利用し、近年開発された光学的測定法により黒色炭素(ブラックカーボン:BC)濃度を測定する。この方法により、新たな機材や多くの労力を使わずに、全国のBCの挙動を明らかにする。	松本利恵 (代表)	126頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～29年度) 研究代表:(地独)北海道立総合研究機構環境科学研究センター その他連携先:富山県環境科学センター、ほか6機関	「反応性窒素の測定法開発と全国の沈着量評価」 越境大気汚染などにより、日本では生態系への窒素過剰負荷の影響が懸念されている。本研究では、アンモニウム塩とアンモニアのより精度の高い分別方法を開発し、還元態を含む反応性窒素成分濃度の測定法を確立する。開発した調査方法で全国調査を実施し、沈着速度推計モデルを用いて全国の反応性窒素成分の沈着量評価を行うことを目的とする。	松本利恵	126頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>(独)日本学術振興会 二国間交流事業 (平成27～29年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:中国・上海大学</p>	<p>「中国における石炭燃料由来のPM2.5の磁気的特性と毒性評価」 中国で肺がん発症率の高い地域の一つである雲南省の農村地域をフィールドとし、そこで発生するPM2.5等の粒子の磁気的性質に着目する。日中の研究者が共同して、磁性成分の物理化学特性や生物活性を調べることで肺がん発症のメカニズムを明らかにすることを目的とする。</p>	<p>米持真一 (代表) 梅沢夏実 王効挙</p>	127頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (平成27～29年度) 研究代表:日本環境衛生センター アジア大気汚染研究センター</p>	<p>「大気微小粒子中のバイオマス起源有機粒子の同定と発生源の評価」 PM2.5の主な構成成分のうち発生過程の解明が最も進んでいない有機粒子を対象として、植物起源有機粒子の指標化合物や炭素同位体の分析を行い、その発生過程や起源ならびにPM2.5への寄与を明らかにする。また、これらの結果から有機粒子の自然起源/人為起源からの寄与を推定し、有効なPM2.5濃度低減対策を提案する。</p>	佐坂公規	127頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(一部基金) (平成25～27年度) 研究代表:秋田大学 その他連携先:日本大学、インドネシア・国立ガジャマダ大学</p>	<p>「東南アジアにおける水銀利用による環境汚染の回復と持続的産業発展に関する研究」 インドネシアなどの多くの開発途上国では、小規模金採掘場に使用されている水銀による土壌や河川の水銀汚染が深刻化している。本研究では、インドネシアの小規模金採掘地域に対して、水銀汚染環境からの回復と健康被害の回避対策・地域産業発展という2側面のアプローチから現地研究調査を行う。</p>	王効挙	128頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成26～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:茨城大学</p>	<p>「高濃度二酸化炭素環境下におけるオゾンが水稻に及ぼす影響とその品種間差の要因解明」 大気中オゾンや二酸化炭素の影響の異なる水稻品種や現在育種している新品種を対象に、収量等に対する大気中オゾンと二酸化炭素の単独及び複合的影響を調べ、高濃度二酸化炭素下で大気中オゾンの影響が変化するかを明らかにするとともに、品種間差異が起こる要因を調べ、影響メカニズムの解明を目指す。</p>	米倉哲志 (代表)	128頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (平成26～29年度) 研究代表:東京農工大学 その他連携先:北海道大学、オックスフォード大学、トラキア大学、ロシア科学アカデミー、国際基督教大学、中国科学院動物研究所</p>	<p>「経済的利用により劣化した東アジアおよびロシア極東地域の食肉目個体群の復元技術開発」 東アジアおよび極東ロシアにおいて、経済的利用によって個体群衰退が著しい中小型食肉目を指標種として、地域レベルおよびユーラシア大陸レベルから遺伝的構造、社会生態、生息地保全、人間社会とのかかわりに関して学際的に研究し、食肉目保全における生息地の復元技法の確立と地域住民への普及啓蒙手法の提案を行う。</p>	角田裕志	129頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～28年度) 研究代表:岐阜大学 その他連携先:山形大学、(国研)森林総合研究所、酪農学園大学、兵庫県立大学</p>	<p>「農山村地域の空洞化回避を主目的に据えた鳥獣害の動向予測と実効的管理体制の提言」 将来の人口減少に伴う農山村の空洞化による野生動物の生息分布拡大の予測と現行の鳥獣対策の整理と課題抽出を行い、人口減少社会において実装可能な鳥獣管理体制や担い手組織、捕獲個体の出口管理のあり方に関する政策提案を目指す。</p>	角田裕志	129頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～29年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「不燃ごみに混入する化粧品、医薬品等の残存内容物量の把握と埋立地管理への影響」 これまでの検討から、不燃ごみ中に捨てられている化粧品、医薬品等の容器内には、内容物が残っているものがある。そこで、残存している内容物量を把握するとともに、それらが埋立地へ与える影響について研究し、不燃ごみの適正処理について検討する。	川寄幹生 (代表) 鈴木和将	130頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～29年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「将来の埋立廃棄物の変質を見据えた最終処分場における埋立廃棄物の安定化評価」 我が国における最終処分場の埋立廃棄物は質・量ともに変化していることを踏まえ、現在～将来における処分場内での廃棄物安定化を把握し、その評価・予測方法を確立することを目的とする。埼玉県内の複数の処分場において、内部の水質やガス組成、温度などのモニタリングと、比抵抗探査や電磁探査といった物理探査による非破壊モニタリングを行う。	磯部友護 (代表)	130頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成26～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「水環境におけるPFOS、PFOAの前駆物質の生分解挙動に関する研究」 生物に対する有害性が指摘されている難分解性物質、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)による河川水の汚染原因を解明するとともに、それらの前駆物質による環境汚染実態とその汚染機構を解明する。	茂木守 (代表) 野尻喜好 堀井勇一	131頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (平成26～28年度) 研究代表:(国研)国立環境研究所 その他連携先:統計数理研究所、大阪市立環境科学研究所、広島県総合技術研究所保健環境センター	「精密質量データ解析法の開発と環境化学物質モニタリングへの応用」 ガスクロマトグラフ-高分解能飛行時間型質量分析計の環境分野への活用の高度化を図り、研究分野の開拓にも繋がる手法の開発を目指す。本装置の能力を最大限活用した物質の検索・同定が可能な高精度の網羅的分析法、物質組成や量の変化を高感度に検出・識別できる精密質量データの解析法を提案し、測定データからの物質の発掘や検索・同定において精密質量データを用いることの優位性を明らかにする。	大塚宜寿	131頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～29年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「ネオニコチノイド系殺虫剤の下水処理場からの排出実態解明と河川水における排出源解析」 ネオニコチノイド系殺虫剤は、河川水中に高頻度で検出され、直接的・間接的な生態系へのリスクが懸念されているが、農業だけでなく家庭でも広く使用されているため、排出実態の把握が困難となっている。水道水や尿からの検出も報告されており、生活排水やし尿中の本殺虫剤が下水処理施設を経由して河川へ放流される可能性が高いが、その実態は未解明である。本研究では、代謝物を含めた分析法の開発を行い、これを用いて下水処理場から河川への排出実態を明らかにするとともに、下流の河川水等の測定データについて非負値行列因子分解を行うことにより、他の排出源の構成比と寄与率を得て、本殺虫剤の排出源解析を行う。	大塚宜寿 (代表) 養毛康太郎	132頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～31年度) 研究代表:(国研)産業技術総合研究所</p>	<p>「第三の極における強太陽光照射が有害物質長距離輸送に与える影響評価研究」 地表に比べて40%も強い太陽光照射によりオゾン層破壊・地球温暖化の影響が急速に進行している「第三の極」であるヒマラヤ山脈・チベット高原等の高山環境において、残留性有機汚染物質の太陽光照射分解・二次生成反応とその環境影響を明らかにする。このうち分担者は、新規有機汚染物質として注目されるシロキサン類の光分解試験を分担し、各種化学物質との比較データに資する。</p>	堀井勇一	132頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(一部基金) (平成25～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:富山大学、東北大学、氷見市教育委員会、(国研)国立環境研究所</p>	<p>「稀少淡水二枚貝のイシガイ類保全のための人工増殖に向けた餌資源の解明」 淡水二枚貝イシガイ類はタナゴ類の産卵母貝として知られるが、県内のみならず、全国的に絶滅が危惧されている。イシガイ類の保全のために、餌資源を明らかにして人工増殖の技術を確立する。</p>	田中仁志 (代表)	133頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成26～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所</p>	<p>「河川生態系への影響が心配な神経毒性農薬の汚染実態と水生昆虫による生態影響試験開発」 神経伝達を阻害するネオニコチノイド系殺虫剤は多くの害虫の防除に効果があり、近年、使用量が増えている。水移行後の環境濃度は情報不足であり、河川生態系における餌生物として重要な水生昆虫に対する影響が心配される。本研究はネオニコチノイド系殺虫剤を対象にした河川汚染実態把握及び水生昆虫による生物検定法の開発を目的としている。</p>	田中仁志 (代表) 大塚宜寿	133頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (平成27～30年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:東北工業大学、中国・山西省環境生態研究センター、山西農業大学</p>	<p>「持続的水環境保全に向けた中国山西省における生物による水質調査と環境教育への適用」 中国山西省では、河川の汚濁が問題となっている。水環境保全の重要性を理解し、将来にわたって良好な水環境が持続するためには、環境教育が有効である。本研究では、我が国ではすでに活用されている指標生物による水質調査方法の中国版を確立すると共に、中国の小学生を対象とした環境教育への導入を図ることを目的としている。</p>	田中仁志 (代表) 木持謙 渡邊圭司 王効挙	134頁
<p>(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成25～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「放射光鉄形態解析を利用した鉄電解型浄化槽におけるリン除去の制御」 小規模分散型の小型浄化槽においては鉄電解法を組み込んだリン除去型が普及しつつあるが、そのリン除去機構の詳細は明らかではない。本研究では、放射光を応用した測定を用い、リンと結合する鉄の形態を測定し、リン除去機構を明らかにする。さらに、検証実験やモデル解析からリン除去安定化の制御手法を確立することを目的とする。</p>	見島伊織 (代表)	134頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～28年度) 研究代表: 秋田工業高等専門学校 その他連携先: 東北大学</p>	<p>「安定同位体比とメタゲノム解析による河川における亜酸化窒素の動態把握と重要性評価」 流域からの人為起源の窒素の流入増加により富栄養化した河川はN₂O生成の場としても注目されている。本研究では、人為起源の窒素が流入する河川におけるN₂O生成量の定量化、河川底泥でのN₂O生成と底泥細菌叢の関連性解明、河川由来のN₂Oの環境影響評価を行う。これにより、河川環境中のN₂Oに関する未解明な課題を解決し、温室効果ガス排出抑制および健全な窒素循環の達成に資することを目的とする。</p>	見島伊織	135頁
<p>(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成27～29年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「河川から高頻度に検出される浮遊細菌による新規リン循環プロセスの解明」 リンは、停滞性河川や湖沼の富栄養化を引き起こす重要な原因物質であり、その水圏環境中での動態の解明は重要な課題である。本研究では、河川から高頻度に検出されるポリリン酸蓄積能を有する浮遊細菌に着目し、その浮遊細菌を介した河川におけるリン循環プロセスを解明することを目的としている。</p>	渡邊圭司 (代表)	135頁
<p>(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(一部基金) (平成26～30年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「地質地下水統合型地下環境情報システムの構築とそれを活用した地下水の最適管理」 地質や地下水情報を対象とした統合型データベースやリモートセンシング技術などを援用することにより、地盤沈下や自然地層に由来する地下水汚染など地盤内部で発生する諸問題を軽減化させるための効果的な地下水管理手法を検討する。</p>	八戸昭一 (代表) 石山高 濱元栄起 柿本貴志 白石英孝 原政之	136頁
<p>(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成25～27年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「鉄酸化物分別溶解法を用いた土壌から地下水への砒素溶出メカニズム解析手法の開発」 砒素による地下水汚染は、日本をはじめ世界各地で大きな環境問題となっている。汚染対策を適切に実施するためには、汚染メカニズムの解明が不可欠である。本研究では、鉄酸化物分別溶解法を適用した簡便迅速な砒素溶出メカニズム解析手法を開発する。</p>	石山高 (代表) 八戸昭一 濱元栄起	136頁
<p>(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成24～27年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「関東平野における地下熱汚染の把握と将来予測」 温暖化によって気温の上昇だけではなく地下の温度も上昇傾向にあることが分かってきた。本研究は、関東平野において地下水観測井を活用し、地下温暖度計測を実施することで、関東平野における地下の温暖化の程度を明らかにすることを目的とする。</p>	濱元栄起 (代表)	137頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成22～27年度) 研究代表: 愛媛大学 その他連携先: (国研)産業技術総合研究所、大阪府立大学、東京大学、(国研)国立環境研究所、三栄ハウス(株)、(一社)海外環境協力センター、(株)数理計画、メテオリサーチ(株)、メキシコ・国立環境・気候変動局</p>	<p>「オゾン、VOCs、PM_{2.5}生成機構の解明と対策シナリオ提言共同研究プロジェクト」 メキシコにおける大気中のオゾン、VOC、PM_{2.5}の生成メカニズムの解明や曝露量の把握を行い、大気汚染対策シナリオを提言する。そのため、オゾンやPM_{2.5}の環境動態を日本とメキシコを中心に解明し、二国間に共通する側面や地域独自の特徴を把握する。これを基にメキシコにおけるオゾン、VOC、PM_{2.5}の生成メカニズムを明らかにする。</p>	長谷川就一	137頁
<p>(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成23～27年度) 研究代表: 埼玉大学 その他連携先: 早稲田大学、(国研)産業技術総合研究所、ペラデニヤ大学、ルフナ大学、キャンディ基礎研究所、全国廃棄物管理支援センター、中央環境庁</p>	<p>「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」 持続可能な低コスト・低メンテナンス・低環境負荷の環境汚染防止技術や廃棄物処分場修復技術の開発・導入により、スリランカ国の廃棄物問題解決への貢献を目指す。</p>	長森正尚 渡辺洋一 磯部友護	138頁
<p>(公財) 鉄鋼環境基金研究助成 (平成26～27年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「有機炭素分析を利用したPM_{2.5}の発生源寄与推定の高分解能化」 PM_{2.5}の炭素分析法として広く用いられている熱分離・光学補正法により得られるOC(有機炭素)フラクションを、発生源の指標として有効活用することで発生源寄与推定の高分解能化を図るため、既知物質の分析によるOCフラクションプロファイルの作成、OCフラクション別の有機成分分析を行い、これらを大気観測試料の発生源寄与推定に導入し、その有効性などを検証する。</p>	長谷川就一 (代表)	138頁
<p>(国研) 宇宙航空研究開発機構 第7回降水観測ミッション(PMM)研究公募 (平成25～27年度) 研究代表: 首都大学東京 その他連携先: (国研)海洋研究開発機構</p>	<p>「複数の降水量データを用いたアジアモンスーン域の各地域(インドシナ半島、海洋大陸など)での降水量変動の特徴の理解」 本研究では、複数のプロダクトの相互比較を行い、全球の降水量変動と大気水循環の変動を明らかにする。</p>	原政之	139頁
<p>(株) 三菱総研 社会ニーズ(安全・安心)・国際幹事等輩出分野に係る国際標準化活動 (平成26～28年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「揮発性環状メチルシロキサン分析法に関する国際標準化」 ポリジメチルシロキサン(いわゆるシリコーン)は、耐熱・耐寒性、電気絶縁性、科学的安定性、撥水性をもつ化合物で、多くの産業分野で広く使用される高生産量化学物質である。最近の調査・研究では、一部揮発性環状メチルシロキサンの毒性や生物蓄積性が指摘されており、欧米では揮発性環状メチルシロキサンについて優先的に詳細科学物質リスク評価が進められている。しかしながら、精度管理の保証された公定分析法の不在から、揮発性環状メチルシロキサンの環境中への排出量や環境中濃度分布に関する情報は限られる現状にある。本事業では揮発性環状メチルシロキサンについて、水試料分析法の国際規格化を行う。</p>	堀井勇一 (代表)	139頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
韓国済州緑色環境支援センター 研究基金 (平成27～28年度) 研究代表:韓国・済州大学校	「済州地域における大気粒子計測による微小粒子の発生源 推定」 韓国済州島済州市内において、四季にPM2.5を採取し、 化学分析を行う。これにより済州島都市部における微小エア ロゾルの実態を把握する。なお、同島ハルラ山においても夏 季と冬季に、日本および中国と同期したPM2.5の採取を行 い、越境大気汚染について知見を得る。	米持真一 田中仁志	140頁

5.2.3 行政令達

(45件)

事業名	目的	担当	関係課	概要
ストップ温暖化・埼玉ナビゲ ーション2050推進事業	県内温室効果ガスの排出量、CO ₂ 濃度、県内各 地の温度データ等を調査・統合し、県内における 温暖化の状況や温暖化対策の効果等について 横断的な分析を行う。	温暖化対策担 当	温暖化対策 課	142頁
地理環境情報システム整備 事業	環境保全施策策定に資するための基礎的な環境 情報を地理情報システムとして整備するとともに、 電子地図及び各種空間情報を県民に提供し、環 境学習や環境保全活動を支援する。	温暖化対策担 当	温暖化対策 課	142頁
有害大気汚染物質等モニ タリング調査事業(地球環 境モニタリング調査)	地球環境問題に係る調査の一環として、大気中 の原因物質の現況と傾向を継続的に把握し、対 策効果の検証を行うための資料とする。	温暖化対策担 当 大気環境担当	大気環境課	143頁
有害大気汚染物質等モニ タリング調査事業(有害大 気汚染物質調査)	有害大気汚染物質による健康被害を未然に防止 するために、大気汚染の状況を監視するモニタ リングを実施する。	大気環境担当	大気環境課	143頁
有害大気汚染物質等モニ タリング調査事業(酸性雨 調査)	大気降下物による汚染の実態とその影響を把握 し、被害の未然防止を図るための基礎資料を得 ることを目的とする。	大気環境担当	大気環境課	144頁
有害大気汚染物質等モニ タリング調査事業(炭化水 素類組成調査)	近年増加傾向である光化学オキシダントの発生 要因を精査するために、原因物質である炭化水 素類の地点別、時間帯別の成分濃度を把握す る。	大気環境担当	大気環境課	144頁
大気汚染常時監視事業	埼玉県内のPM2.5による汚染実態を把握するとと もに、その成分も分析することで、PM2.5の濃度低 減を図るための基礎的なデータを得る。	大気環境担当	大気環境課	145頁
NO _x ・PM総量削減調査事 業	関東広域におけるPM2.5の成分を把握し、対策に役 立てるとともに、交差点近傍のNO ₂ 、NO _x 濃度を 測定し、実態を把握する。	大気環境担当	大気環境課	145頁
PM2.5対策事業(大気移動 監視車整備)	大気環境中におけるPM2.5の濃度は改善傾向に あるものの、常時監視測定局で濃度を測定す るだけでは、県民の不安感を払しょくできない。そ こで、機動力に富み、成分も分析できる移動監視 車を活用し、高濃度事象の実態把握や常時監視 の成分分析の補完等を行う。	大気環境担当	大気環境課	146頁
PM2.5対策事業(PM2.5発 生源調査)	ばい煙発生施設から排出されるPM2.5の実態を明 らかにすることで、PM2.5の発生源対策に役立て るとともに、排出インベントリーの整備にも寄与 することを目的とする。	大気環境担当	大気環境課	146頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
PM2.5対策事業(越境移流対策・国際協力)	PM2.5の越境汚染対策に資するため、自由対流圏に位置する富士山頂測候所および韓国济州島でPM2.5を採取し、成分の分析を行う。	大気環境担当	大気環境課	147頁
PM2.5対策事業(揮発性有機化合物対策)	光化学オキシダントによる健康被害を防止するために、原因物質である揮発性有機化合物(VOC)の大気への排出状況を把握し、排出削減のための事業者指導を行う。	大気環境担当	大気環境課	147頁
工場・事業場大気規制事業	工場、事業場から排出されるばい煙等による大気汚染を防止するため、固定発生源における窒素酸化物等の測定を行う。また、大気関係公害の苦情処理に必要な調査及び指導等を行う。	大気環境担当	大気環境課	148頁
大気環境石綿(アスベスト)対策事業	石綿による環境汚染を防止し、県民の健康を保護するとともに、生活環境を保全するための調査を行う。	大気環境担当	大気環境課	148頁
騒音・振動・悪臭防止対策事業	騒音、振動、悪臭に関する規制事務の適正な執行を図るため、苦情処理に必要な指導及び調査を実施する。	大気環境担当 土壌・地下水・地盤担当	水環境課	149頁
化学物質環境実態調査事業	一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルを把握する。	大気環境担当 化学物質担当 水環境担当	大気環境課 (環境省委託)	149頁
大気汚染常時監視運営管理事業(光化学オキシダント植物影響調査)	県内における光化学オキシダント(主としてオゾン)による植物被害の発生状況を把握するため、オゾンの指標植物であるアサガオを用いて、その被害の県内分布等を調査する。	自然環境担当	大気環境課	150頁
希少野生生物保護事業	「県内希少野生動植物種」に指定されているソボツチスガリ(ハチ目)、イモリ(両生類)について、生息地の継続的なモニタリングを実施する。また、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ等について、個体の維持・増殖を行う。	自然環境担当 温暖化対策担当	みどり自然課	150頁
野生生物保護事業	奥秩父雁坂峠付近の亜高山帯森林において、現在進行しているニホンジカによる食害の状況を経年的に調査・把握するとともに、同地において気象観測を行う。	自然環境担当 温暖化対策担当	みどり自然課	151頁
身近なふる里みどり創造事業	県内の環境保全団体等による野生動植物のモニタリングデータを集約するとともに、活用法を検討する。	自然環境担当 温暖化対策担当	みどり自然課	151頁
侵略的外来生物対策事業	特定外来生物を含む外来生物全般について、県内での生息・生育状況を把握する。	自然環境担当 温暖化対策担当	みどり自然課	152頁
産業廃棄物排出事業者指導事業	最終処分場の埋立作業時及び埋立終了後における監視指導を強化し、廃棄物の適正処理・管理の推進並びに生活環境の保全に資する。また、家屋解体現場及び産業廃棄物中間処理施設等における廃棄物中のアスベスト分析を行い、行政指導の支援を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	152頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業	廃棄物の山が周辺に与える支障の有無について評価する。また、廃棄物の山の撤去等に必要な調査を実施するとともに周辺に影響を与える場合の支障軽減対策を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	153頁
廃棄物不法投棄特別監視対策事業	不法投棄された廃棄物の検査を実施し、生活環境への影響を評価するとともに支障を軽減・除去する。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	153頁
廃棄物処理施設検査監視指導事業	一般廃棄物処理施設(最終処分場及び焼却施設)の立入検査で採取した試料を分析するとともに、処理事業所等に対して現場調査を含む技術的なコンサルティングを行う。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	154頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業(埋立処分①イオン類、埋立処分②閉鎖)	埼玉県環境整備センターの浸出水、処理水、地下水の水質検査、並びに埋立地ガスの検査により、適正な維持管理に資する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	154頁
循環型社会づくり推進事業	一般廃棄物不燃ごみ及び粗大ごみの適正処理について検討する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	155頁
新河岸川産業廃棄物処理対策事業	有機溶剤等を含む廃棄物が不法投棄された新河岸川河川敷で実施されている処理対策を支援する。	資源循環・廃棄物担当	河川砂防課	155頁
ダイオキシン類大気関係対策事業	ダイオキシン類による環境汚染の防止を図るため、ダイオキシン類対策特別措置法及び県生活環境保全条例に基づく立入検査等に伴って採取した排ガス、ばいじん等の検査を実施する。	化学物質担当	大気環境課	156頁
工場・事業場水質規制事業(ダイオキシン類)	ダイオキシン類対策特別措置法等に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排水規制の徹底を図る。	化学物質担当	水環境課	156頁
土壌・地下水汚染対策事業(土壌のダイオキシン類調査)	大気に係るダイオキシン類の特定施設からの影響を監視するため、発生源周辺の土壌汚染状況調査、汚染の恐れがあると判断される土地に対する立入検査を行い、県民の健康被害の防止を図る。	化学物質担当	水環境課	157頁
水質監視事業(ダイオキシン類汚染対策調査)	環境基準の超過が認められている河川について、汚染の動向を監視する視点による調査、解析・考察を行う。	化学物質担当	水環境課	157頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業(ダイオキシン類調査(大気))	資源循環工場の運営協定に基づき、埼玉県環境整備センター及び資源循環工場の周辺地域の環境調査を継続的に実施する。	化学物質担当	資源循環推進課	158頁
化学物質総合対策推進事業(工業団地等周辺環境調査)	化学物質排出把握管理促進法対象化学物質のうち、大気への排出量の多い化学物質を中心に、事業場周辺における大気環境濃度の実態を把握する。	化学物質担当 大気環境担当	大気環境課	158頁
野生動物レスキュー事業	野鳥等の不審死の原因を推定するため、胃内容物等に含まれる農薬等化学物質を分析検査する。	化学物質担当	みどり自然課	159頁
水質監視事業(公共用水域)	県内主要河川の環境基準達成状況を把握し、人の健康の保護と生活環境の保全を図る。	水環境担当	水環境課	159頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
工場・事業場水質規制事業	工場・事業場の排水基準の遵守及び公共用水域の保全を目的に、水質汚濁防止法及び県生活環境保全条例に基づき、環境管理事務所が実施した立ち入り検査等による採取検体の分析(クロスチェック)を行い、水質汚濁の防止に役立てる。	水環境担当 土壌・地下水・ 地盤担当	水環境課 各環境管理 事務所	160頁
水質事故対策事業	油類の流出、魚類の浮上・へい死等の異常水質事故の発生に際し、迅速に発生源及び原因物質を究明して適切な措置を講じることにより、汚染の拡大を防止し、県民の健康被害の防止及び水質の保全を図る。	水環境担当	水環境課	160頁
川の国応援団支援事業	県民による自立的な川の再生活動が継続されるよう、川の再生活動に取り組む団体を支援するとともに、民と民との連携強化を図り、「川の国埼玉」を実現する。	水環境担当	水環境課	161頁
綾瀬川・中川水質集中改善事業	綾瀬川及び中川の水質改善対策を部局横断的な取組により進め、「全国水質ワースト5河川(国土交通省直轄管理区間)」からの脱却を図る。	水環境担当	水環境課 越谷市環境 経済部環境 政策課	161頁
水質監視事業(地下水常時監視)	地下水の水質調査を行うことで、環境基準の達成状況や地下水の汚染地域を把握し、事業所等への指導と併せ、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	土壌・地下水・ 地盤担当 水環境担当	水環境課	162頁
土壌・地下水汚染対策事業	汚染が懸念される土壌・地下水等の調査・分析・解析等により、汚染状況の把握及び汚染機構の解明を行い、土壌・地下水汚染対策の推進を図る。	土壌・地下水・ 地盤担当	水環境課 各環境管理 事務所	162頁
未利用エネルギー徹底活用事業	河川・水路等における水力発電や地中熱の利用可能性、コスト等を取りまとめ、県内の未利用エネルギーの利用拡大を図る。	土壌・地下水・ 地盤担当	環境政策課	163頁
環境放射線調査事業	福島第一原子力発電所事故による放射線の影響について、いまだに多くの県民が不安を抱いていることから、一般環境における放射線の測定を実施し、県民の安心・安全を確保する。	環境放射能担 当	大気環境課 水環境課	163頁
環境ビジネス推進事業	環境科学国際センター及び県内企業が蓄積した水処理技術に関する技術やノウハウを移転し、中国の環境改善を図る。	研究企画室 水環境担当	環境政策課	164頁

5.3 他研究機関との連携

埼玉県が直面している環境に関する諸問題へ対応するための試験研究や環境面での国際貢献など、環境科学国際センターが環境に関する総合的中核機関として機能するためには、当センターにおける研究活動の高度化、活性化をより一層図っていく必要がある。そこで、大学や企業等との共同研究や研究協力を積極的に推進するとともに、他の研究機関から客員研究員を迎えて研究交流や情報交換を行っている。

また、早稲田大学理工学術院総合研究所と研究交流協定(平成12年6月)、埼玉大学と教育研究の連携・協力に関する覚書(平成14年3月)及び立正大学環境科学研究所と研究交流協定(平成20年5月)を締結し、大学と共同研究、人的交流等の連携を推進している。

平成27年度は、国内外で33課題を実施した。

(1) 国内の大学・民間企業等との共同研究・研究協力

共同研究・研究協力一覧

(25課題)

連携先	研究課題名及び概要	担当者
(国研)海洋研究開発機構、九州大学、筑波大学	「埼玉県の気候変動による課題を踏まえた、適応策に資する技術開発とその実装」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.28)、7.2外部資金研究概要(p.125)	嶋田知英 原政之 武藤洋介 三輪誠
首都大学東京、(国研)海洋研究開発機構	「複数の降水量データを用いたアジアモンスーン域の各地域(インドシナ半島、海洋大陸など)での降水量変動の特徴の理解」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.33)、7.2外部資金研究概要(p.139)	原政之
北海道大学、(地独)北海道立総合研究機構、ほか8機関	「広域測定網における大気汚染測定フィルターの再利用による光学的黒色炭素粒子の測定」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.28)、7.2外部資金研究概要(p.126)	松本利恵
(地独)北海道立総合研究機構、富山県環境科学センター、ほか6機関	「反応性窒素の測定法開発と全国の沈着量評価」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.28)、7.2外部資金研究概要(p.126)	松本利恵
早稲田大学理工学術院	「サブミクロン粒子PM ₁ の都心と郊外との比較と特性解明」 PM _{2.5} の多くはPM ₁ として存在すると考えられ、一方で、粗大粒子の影響をほとんど受けないと考えられる。本研究は、これまで早稲田大学敷地内で実施してきた粒子状物質捕集と性状の比較を、更に発展させ、郊外と都心とのPM ₁ の詳細な比較を行う。	米持真一
(一財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター	「大気微小粒子中のバイオマス起源有機粒子の同定と発生源の評価」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.29)、7.2外部資金研究概要(p.127)	佐坂公規
(国研)国立環境研究所、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所、ほか55機関	「PM _{2.5} の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明」(II型共同研究) 高濃度汚染時のPM _{2.5} 観測とデータベース化、レセプターモデルによる発生源種別寄与評価、化学輸送モデルによる地域別寄与評価、間欠測定データと長期平均値の関係解析、PM _{2.5} の新たな分析項目や手法の検討などを行うことで、PM _{2.5} の短期および長期基準超過をもたらす汚染機構を解明し、環境基準達成への対策に資する知見を得る。	長谷川就一 原政之
(国研)国立環境研究所、ほか7機関	「植物の環境ストレス診断法の確立と高度化に関する研究」(II型共同研究) 植物を用いた環境影響評価によって環境情報の充実を図りつつ、大気環境保全に取り組むため、分子的メカニズムに基づく野外における植物のストレス診断法を実地検証して確立する。また、それを低線量環境放射線の植物への影響評価に応用することを目指す。さらに、市民の理解を深めるため、研究結果の普及を図る。	三輪誠

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
茨城大学	「高濃度二酸化炭素環境下におけるオゾンが水稻に及ぼす影響とその品種間差の要因解明」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.29)、7.2外部資金研究概要(p.128)	米倉哲志
岐阜大学、山形大学、(国研)森林総合研究所、酪農学園大学、兵庫県立大学	「農山村地域の空洞化回避を主目的に据えた鳥獣害の動向予測と実効的管理体制の提言」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.29)、7.2外部資金研究概要(p.129)	角田裕志
(国研)国立環境研究所、ほか3機関	「廃棄物の焼却処理に伴う化学物質のフローと環境排出量推計に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.28)、7.2外部資金研究概要(p.124)	渡辺洋一 堀井勇一
(国研)産業廃棄物処理事業振興財団、ほか5機関	「プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.28)、7.2外部資金研究概要(p.124)	川崎幹生
(国研)国立環境研究所、(公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所、ほか24機関	「国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明」(Ⅱ型共同研究) 全国の地方環境研究所が、国内で対策が進んでいない残留性有機汚染物質や有機フッ素化合物について共同調査等を行い、排出源及び環境動態等の解明を進める。	茂木守 野尻喜好
(国研)国立環境研究所、統計数理研究所、大阪市立環境科学研究所、広島県総合技術研究所保健環境センター	「精密質量データ解析法の開発と環境化学物質モニタリングへの応用」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.30)、7.2外部資金研究概要(p.131)	大塚宜寿
(国研)産業技術総合研究所	「第三の極における強太陽光照射が有害物質長距離輸送に与える影響評価研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.31)、7.2外部資金研究概要(p.132)	堀井勇一
(株)島津製作所	「環境水のTOC計測手法に関する研究」 河川や湖沼等の環境水のTOC計測に関して、試料の前処理及び分析装置の最適化に関して検討し、的確な分析手法を確立する。	高橋基之 池田和弘
富山大学、東北大学、氷見市教育委員会、(国研)国立環境研究所	「稀少淡水二枚貝のイシガイ類保全のための人工増殖に向けた餌資源の解明」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.31)、7.2外部資金研究概要(p.133)	田中仁志
(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	「河川生態系への影響が心配な神経毒性農薬の汚染実態と水生昆虫による生態影響試験開発」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.31)、7.2外部資金研究概要(p.133)	田中仁志 大塚宜寿
東洋大学	「生物応答を用いた排水・環境水等の評価・管理手法の研究」 埼玉県内のフィールドを中心に、排水・環境水等の安全性評価等を試みるとともに、生態影響の低減技術等についても研究開発を進める。平成27年度は、ゼブラフィッシュを用いた環境水(河川水等)の基礎的評価について検討した。	田中仁志 木持謙
さいたま市健康科学センター、東京都環境科学研究所	「東京湾及び荒川流域を対象にした水環境管理に向けた都県市による共同総合研究」 平成27年度は、荒川上流域から東京湾にかけて、3機関で大腸菌数の広域調査を行った。また、大腸菌数の測定方法に関して、メンブレンフィルター上に検出されるコロニーの16S rRNA遺伝子解析による同定、および画像解析ソフトを活用した培養プレート上のコロニーの簡易計測手法の開発を行った。	田中仁志 渡邊圭司

連携先	研究課題名及び概要	担当者
(国研)国立環境研究所、 岩手県環境保健研究センター、 千葉県環境研究センター、 ほか5機関	「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」(I型共同研究) 本共同研究を今後のWETの規制化に向けたケーススタディと位置づけ、 国立環境研究所と地方環境研究所との技術の共有化や現在既に有している 技術の精度確認、さらに試験手法及びTRE/TIE手法などのブラッシュアップ に向けた知見の集積を目指す。	田中仁志
秋田工業高等専門学校、 東北大学	「安定同位体比とメタゲノム解析による河川における亜酸化窒素の動態把握 と重要性評価」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.32)、7.2外部資金研究概要(p.135)	見島伊織
東京大学地震研究所	「新世代合成開口レーダーを用いた地表変動研究」特定共同研究(B) 合成開口レーダーを用いた精細な地表変動解析によって得られる様々な 情報を、地域の地盤沈下監視を所管する地方自治体の環境行政に直接 役立てる方法について検討する。	八戸昭一
東京大学地震研究所	「地下熱環境調査のための地下温度計測と長期温度モニタリング」 温暖化による地下熱環境の変化の調査を行い、低温地熱資源利用の 推進に役立つ基礎データの取得を行うとともに、地球科学的研究のために 深部の地下温度構造等の推定を行う。	濱元栄起 八戸昭一 石山高 白石英孝
(国研)産業技術総合研 究所、秋田大学	「埼玉県平野部の地下水環境に関する研究」 埼玉県平野部に設置されている地下水位・地盤沈下観測井ならびに各 種水源井を対象として地下水温の観測・長期モニタリングを行うとともに、 地下水試料を採取して主要溶存成分ならびに環境同位体を測定する。	濱元栄起 八戸昭一

(2) 国際共同研究

(8課題)

事業名・期間・連携先	研究課題名及び概要	担当者
(独)日本学術振興会 二国間交流事業 (平成27~29年度) 相手国連携先:中国・上海大学	「中国における石炭燃料由来のPM2.5の磁気的特性と毒性 評価」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.29)、7.2外部資金研究 概要(p.127)	米持真一 (代表) 梅沢夏実 王効挙
韓国済州緑色環境支援センター 研究基金 (平成27~28年度) 相手国連携先:韓国・済州大校	「済州地域における大気粒子計測による微小粒子の発生源 推定」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.34)、7.2外部資金研究 概要(p.140)	米持真一 田中仁志
(独)科学技術振興機構 地球規模課題 対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成22~27年度) 研究代表:愛媛大学 その他連携先:(独)産業技術総合研 究所、大阪府立大学、東京大学、(国研) 国立環境研究所、三栄ハウス(株)、(一 社)海外環境協力センター、(株)数理計 画、メテオリサーチ(株) 相手国連携先:メキシコ・国立環境・気候 変動局	「オゾン、VOCs、PM2.5生成機構の解明と対策シナリオ提言 共同研究プロジェクト」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.33)、7.2外部資金研究 概要(p.137)	長谷川就一
(独)日本学術振興会 科学研究費助成 事業 (平成25~27年度) 研究代表:秋田大学 その他連携先:日本大学 相手国連携先:インドネシア・国立ガジャ マダ大学	「東南アジアにおける水銀利用による環境汚染の回復と持 続的産業発展に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.29)、7.2外部資金研究 概要(p.128)	王効挙

事業名・期間・連携先	研究課題名及び概要	担当者
(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (平成26～29年度) 研究代表: 東京農工大学 その他連携先: 北海道大学、国際基督教大学 相手国連携先: オックスフォード大学、トラキア大学、ロシア科学アカデミー、中国科学院動物研究所	「経済的利用により劣化した東アジアおよびロシア極東地域の食肉目個体群の復元技術開発」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.29)、7.2外部資金研究概要(p.129)	角田裕志
(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成23～27年度) 研究代表: 埼玉大学 その他連携先: 早稲田大学、(国研)産業技術総合研究所 相手国連携先: スリランカ国・ペラデニヤ大学、ルフナ大学、キャンディ基礎研究所、全国廃棄物管理支援センター、中央環境省	「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.33)、7.2外部資金研究概要(p.138)	長森正尚 渡辺洋一 磯部友護
(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (平成27～30年度) その他連携先: 東北工業大学 相手国連携先: 中国・山西省環境生態研究センター、山西農業大学	「持続的水環境保全に向けた中国山西省における生物による水質調査と環境教育への適用」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.31)、7.2外部資金研究概要(p.134)	田中仁志 (代表) 木持謙 渡邊圭司 王効拳
国際貢献事業 (平成25～27年度) 相手国連携先: 中国・上海大学	「生活ごみ焼却飛灰の資源化」 中国各地の都市ごみ焼却炉飛灰の資源化を推進するため、無害化処理等を行った試料のダイオキシン類濃度を測定し、その有効性を評価する。	細野繁雄 王効拳 茂木守 大塚宜寿

(3) 大学・大学院からの学生の受入れ

共同研究等の実施に伴い大学・大学院から派遣された学生に研究指導を行った。また、大学からの依頼により実習生を受け入れ、研究員による研究実習を行った。

大学との共同研究、研究協力の実施に伴う学生の受入実績

(受入3名)

所 属	摘 要
早稲田大学大学院創造理工学研究科 修士課程 2名	理工学術院 名古屋俊士 教授
早稲田大学創造理工学部 1名	

実習生の受入実績

(受入1名)

所 属	実 習 期 間
明星大学理工学部総合理工学科環境・生態学系 1名	平成27年7月31日～8月7日

(4) 客員研究員の招へい

実績と経験を有する研究者を当センター客員研究員として招き、当センターで行っている調査・研究業務に対して研究指導や助言等を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
増富 祐司	茨城大学農学部地域環境科学科 准教授
大河内 博	早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授
鎌田 直人	東京大学大学院農学生命科学研究科演習林 北海道演習林 教授
谷川 昇	公益社団法人日本産業廃棄物処理振興センター 調査部長
橋本 俊次	国立研究開発法人国立環境研究所環境計測研究センター 有機計測研究室 室長
藤野 毅	埼玉大学理工学研究科 研究部 環境科学・社会基盤部門 環境科学領域 准教授
小泉 謙	日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部 地圏防災室

(5) 研究審査会の開催

当センターが実施する研究課題について、外部有識者で構成する埼玉県環境科学国際センター研究審査会を開催し、当センターの研究に対する審査及び助言を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
小口 千明	埼玉大学大学院理工学研究科 准教授
河野 吉久	電力中央研究所 名誉研究アドバイザー
榊原 豊	早稲田大学理工学術院 教授
田中 充	法政大学社会学部 学部長
畠山 史郎	東京農工大学大学院農学研究院 教授
原澤 英夫	国立開発法人国立環境研究所 理事(研究担当)

5.4 学会等における研究発表

5.4.1 論文

(26件)

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Assessing depth-integrated phytoplankton biomass in the East China Sea using a unique empirical protocol to estimate euphotic depth	H. Koshikawa ⁶⁾ , H. Higashi ⁶⁾ , T. Hasegawa ¹⁰⁾ , K. Nishiuchi ⁹⁾ , H. Sasaki ¹⁰⁾ , M. Kawachi ⁶⁾ , Y. Kiyomoto ¹⁰⁾ , K. Takayanagi ¹¹⁵⁾ , K. Kohata, S. Murakami ⁶⁾	Estuarine, Coastal and Shelf Science, Vol.153, 74-85 (2015)	165頁
Critical air temperature and sensitivity of the incidence of chalky rice kernels for the rice cultivar “Sai-no-kagayaki”	Y. Masutomi ⁶⁵⁾ , M. Arakawa ³⁾ , T. Minoda ³⁾ , T. Yonekura, T. Shimada	Agricultural and Forest Meteorology Vol.203, 11-16 (2015)	165頁
A 20-year climatology of a NICAM AMIP-type simulation	C. Kodama ⁸⁾ , Y. Yamada ⁸⁾ , A. T. Noda ⁸⁾ , K. Kikuchi ¹⁰⁷⁾ , Y. Kajikawa ¹³⁾ , T. Nasuno ⁸⁾ , T. Tomita ⁹⁵⁾ , T. Yamaura ¹³⁾ , H.G. Takahashi ⁶⁹⁾ , M. Hara, Y. Kawatani ⁸⁾ , M. Satoh ⁶⁷⁾ , M. Sugi ¹⁴⁾	Journal of the Meteorological Society of Japan, Vol.93, No.4, 393-424 (2015)	165頁
Effect of climate change on the snow disappearance date in mountainous areas of central Japan	Y. Wakazuki ⁶⁶⁾ , M. Hara, M. Fujita ⁸⁾ , C. Suzuki ⁸⁾ , X. Ma ⁸⁾ , F. Kimura ⁸⁾	Hydrological Research Letters, Vol.9, No.2, 20-26 (2015)	166頁
An oceanic impact of the Kuroshio on surface air temperature on the Pacific coast of Japan in summer: Regional H ₂ O greenhouse gas effect	H.G. Takahashi ⁶⁹⁾ , S.A. Adachi ¹³⁾ , T. Sato ⁶¹⁾ , M. Hara, X. Ma ⁸⁾ , F. Kimura ⁸⁾	Journal of Climate, Vol.28, No.18, 7128-7144 (2015)	166頁
領域気候・都市気候・建物エネルギー連成数値モデルを用いた名古屋市における夏季の電力需要および温熱快適性の将来予測	高根雄也 ⁷⁾ 、青木翔平 ¹²⁴⁾ 、亀卦川幸浩 ⁷⁵⁾ 、山川洋平 ⁷⁵⁾ 、原政之、近藤裕昭 ⁷⁾ 、飯塚悟 ⁸⁴⁾	日本建築学会環境系論文集、Vol.80、No.716、973-983 (2015)	166頁
Mineralogical characterization of ambient fine/ultrafine particles emitted from Xuanwei C1 coal combustion	S. Lu ¹⁰²⁾ , X. Hao ¹⁰²⁾ , D. Liu ¹⁰²⁾ , Q. Wang ¹⁰²⁾ , W. Zhang ¹⁰²⁾ , P. Liu ¹⁰²⁾ , R. Zhang ¹⁰²⁾ , S. Yu ¹⁰²⁾ , R. Pan ¹⁰²⁾ , M. Wu ¹⁰²⁾ , S. Yonemochi, Q. Wang ⁵⁾	Atmospheric Research, Vol.169, 17-23 (2016)	167頁
希土類元素(レアアース)に着目した中国大都市と首都圏のPM _{2.5} の元素成分と発生源の特徴	米持真一、刘品威 ¹⁰²⁾ 、呂森林 ¹⁰²⁾ 、張文超 ¹⁰²⁾ 、大石沙紀 ⁷¹⁾ 、柳本悠輔 ⁷¹⁾ 、名古屋俊士 ⁷¹⁾ 、大河内博 ⁷¹⁾ 、梅沢夏実、王効挙	大気環境学会誌、Vol.51、No.1、33-43 (2016)	167頁
PM _{2.5} の炭素成分測定における正のアーティファクトの影響	長谷川就一	大気環境学会誌、Vol.51、No.1、58-63 (2016)	167頁
Development of a reliable method to determine monoterpene emission rate of plants grown in an open-top chamber	T. Mochizuki ⁸³⁾ , T. Saito ⁸³⁾ , G. Hirai ⁸³⁾ , M. Miwa, T. Yonekura, A. Tani ⁸³⁾	Journal of Agricultural Meteorology, Vol.71, No.4, 271-275 (2015)	168頁
Phytoremediation potential of sorghum as a biofuel crop and the enhancement effects with microbe inoculation in heavy metal contaminated soil	K. Oh, T. Cao ⁹⁸⁾ , H. Cheng ⁹⁹⁾ , X. Liang ⁹⁸⁾ , X. Hu ¹⁰²⁾ , L. Yan ¹⁰²⁾ , S. Yonemochi, S. Takahi ⁶²⁾	Journal of Biosciences and Medicines, Vol.3, 9-14 (2015)	168頁

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Phytoremediation of mercury contaminated soils in a small scale artisanal gold mining region of Indonesia	K. Oh, S. Takahi ⁶² , S. Wedhastri ¹¹⁰ , H.L. Sudarmawan ¹¹⁰ , R. Rosariastuti ¹¹⁰ , I. D. Prijambada ¹¹⁰	International Journal of Biosciences and Biotechnology, Vol.3, No.1, 14-21 (2015)	168頁
Use of energy crop (<i>Ricinus communis</i> L.) for phytoextraction of heavy metals assisted with citric acid	H. Zhang ¹⁰² , X. Chen ¹⁰² , C. He ¹⁰² , X. Liang ¹⁰² , K. Oh, X. Liu ¹⁰² , Y. Lei ¹⁰²	International Journal of Phytoremediation, Vol.17, No.7, 632-639 (2015)	169頁
Mercury in municipal solids waste incineration (MSWI) fly ash in China: Chemical speciation and risk assessment	J. Zhou ¹⁰² , S. Wu ¹⁰² , Y. Pan ¹⁰² , Y. Su ¹⁰² , L. Yang ¹⁰² , J. Zhao ¹⁰² , Y. Lu ¹⁰² , Y. Xu ¹⁰² , K. Oh, G. Qian ¹⁰²	Fuel, Vol.158, 619-624 (2015)	169頁
Enrichment of heavy metals in fine particles of municipal solid waste incinerator (MSWI) fly ash and associated health risk	J. Zhou ¹⁰² , S. Wu ¹⁰² , Y. Pan ¹⁰² , L. Zhang ¹⁰² , Z. Cao ¹⁰² , X. Zhang ¹⁰² , S. Yonemochi, S. Hosono, Y. Wang ¹⁰² , K. Oh, G. Qian ¹⁰²	Waste Management, Vol.43, 239-246 (2015)	169頁
Accumulation of de-icing salts and its short-term effect on metal mobility in urban roadside soils	F. Li ¹⁰⁴ , Y. Zhang ¹⁰³ , Z. Fan ¹⁰⁴ , K. Oh	Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology, Vol.94, 525-531 (2015)	170頁
Effects of different bacterial chaff fertilizers on speciation of sewage irrigation pollution soil copper form and soil enzyme activity	T. Wang ⁹⁹ , X. Wang, J. Zhang ¹⁰¹ , H. Cheng ¹⁰¹ , Q. Wang ¹⁰¹ , Q. Dong ⁹⁹	Journal of Irrigation and Drainage, Vol.34, No.10, 40-44 (2015)	170頁
Effects of different bacterial chaff fertilizer on absorption and transfer of heavy metals by corn in sewage irrigation pollution soil	T. Wang ⁹⁹ , J.G. Zhang ¹⁰¹ , K. Oh, H.Y. Cheng ⁹⁹ , Q. Wang ⁹⁹ , Q. Dong ⁹⁹	Guangdong Agricultural Sciences, Issue 20, 4-8 (2015)	170頁
Comparison of food habits between native Amur three-lips (<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>) and non-native largemouth bass (<i>Micropterus salmoides</i>) in Lake Biwa, Japan.	H. Tsunoda, T. Urano ⁶⁸ , M. Ohira ⁶⁸	Annales de Limnologie - International Journal of Limnology, Vol.51, No.3, 273-280 (2015)	171頁
潮位変動による古綾瀬川河川水のダイオキシン類濃度の変動	野尻喜好、茂木守、大塚宜寿、蓑毛康太郎、堀井勇一、茂木亨 ¹ 、後藤政秀 ¹	全国環境研会誌、Vol.40、No.2、58-62 (2015)	171頁
琵琶湖水中のフルボ酸のOECD試験法による水生生物への急性毒性評価	早川和秀 ⁴⁴ 、廣瀬佳則 ⁴⁴ 、一瀬諭 ⁴⁴ 、岡本高弘 ⁴⁴ 、古田世子 ⁴⁴ 、田中稔 ⁴⁴ 、藤嶽暢英 ⁹⁰ 、田中仁志	日本水処理生物学会誌、Vol.51、No.4、105-114 (2015)	171頁
Greenhouse gases control and water purification performance in a Johkasou system under energy saving operation	Y. Kimochi, K. Jono ⁶⁶ , H. Yamazaki ⁶⁷ , K.Q. Xu ⁶ , Y. Inamori ¹⁸	Japanese Journal of Water Treatment Biology, Vol.51, No.3, 61-68 (2015)	172頁
Development of an integrated environmental impact assessment model for assessing nitrogen emissions from wastewater treatment plants	I. Mishima, N. Yoshikawa ⁸⁷ , Y. Yoshida ⁷² , K. Amano ⁸⁷	Journal of Water and Environment Technology, Vol.14, No.1, 6-14 (2016)	172頁

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
水道管路のライニング管および硬質塩化ビニル管における水中カメラ画像および懸濁物質組成の調査	石渡恭之 ²⁶⁾ 、加藤健 ²⁶⁾ 、見島伊織、藤田昌史 ⁶⁵⁾	水環境学会誌、Vol.39、No.2、43-50 (2016)	172頁
Multiple-scale hydrothermal circulation in 135 Ma oceanic crust of the Japan Trench outer rise: Numerical models constrained with heat flow observations	L. Ray ¹¹¹⁾ 、Y. Kawada ^{67,8)} 、H. Hamamoto、M. Yamano ⁶⁷⁾	Geochemistry, Geophysics, Geosystems, Vol.16, Issue 8, 2711-2724 (2015)	173頁
大阪平野における地下温暖化の実態	有本弘孝 ¹¹⁸⁾ 、谷口真人 ¹⁵⁾ 、濱元栄起、岸本安弘 ¹⁶⁾ 、水間健二 ⁴⁷⁾ 、小林晃 ⁸⁹⁾	地盤工学会「地下水地盤環境・防災・計測技術に関するシンポジウム」論文集、71-76 (2015)	173頁

(注) 執筆者の所属機関名は208ページに一覧にした。

5.4.2 国際学会プロシーディング

(24件)

論文名	執筆者	会議録	抄録
Detection of benzene in landfill leachate from Gohagoda dumpsite and its removal using municipal solid waste derived biochar	Y. Jayawardhana ¹²²⁾ 、P. Kumarathilaka ¹²²⁾ 、L. Weerasundara ¹²²⁾ 、M.I.M. Mowjood ¹²³⁾ 、G.B.B. Herath ¹²³⁾ 、K. Kawamoto ⁵⁾ 、M. Nagamori、M. Vithanage ¹²²⁾	Proceedings of the 6th International Conference on Structural Engineering and Construction Management (ICSECM-2015), 50-56 (2015) (13 Dec. 2015, Kandy, Sri Lanka)	174頁
Identification of temporal variability of contamination in perched water and groundwater at an open dumpsite in Sri Lanka, using leachate pollution index (LPI)	U. Kumarasinghe ⁵⁾ 、Y. Inoue ⁵⁾ 、T. Saito ⁵⁾ 、M. Nagamori、M.I.M. Mowjood ¹²³⁾ 、K. Kawamoto ⁵⁾	Proceedings of the 4th International Symposium on Advances in Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development (ACEPS-2016), 126-133 (2016) (3 Mar. 2016, Galle, Sri Lanka)	174頁
Chlorinated and brominated polycyclic aromatic hydrocarbons in e-waste open burning soils in Vietnam, the Philippines, and Ghana	C. Nishimura ⁸⁶⁾ 、Y. Horii、S. Tanaka ⁸⁶⁾ 、K.A. Asante ¹²¹⁾ 、F.C. Ballesteros Jr. ¹⁰⁹⁾ 、P.H. Viet ¹⁰⁸⁾ 、T. Itai ⁹³⁾ 、H. Takigami ⁶⁾ 、S. Tanabe ⁹³⁾ 、T. Fujimori ⁸⁶⁾	Organohalogen Compounds, Vol.77, 187-190 (2015) 35th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2015) (25 Aug. 2015, São Paulo, Brazil)	174頁
Decomposition rate of hexabromocyclododecane (HBCD) and its by-products	Y. Miyake ⁸³⁾ 、Q. Wang ⁸³⁾ 、T. Amagai ⁸³⁾ 、Y. Horii	Organohalogen Compounds, Vol.77, 695-698 (2015) 35th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2015) (27 Aug. 2015, São Paulo, Brazil)	175頁
Diurnal cycle of convective activity in the Tropics observed by Rain Radar mounted on the Tropical Rainfall Measuring Mission satellite	M. Hara、H.G. Takahashi ⁶⁹⁾ 、M. Fujita ⁸⁾ 、S. Hachinohe	Abstract of the 26th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics, M02p-366 (2015) (24 Jun. 2015, Prague, Czech Republic)	175頁
Estimation of thermal environment improvement by major green spaces over the Tokyo Metropolitan area	M. Hara、T. Shimada	Abstract of the International Workshop on Downscaling 2015, P4 (2015) (6 Oct. 2015, Tsukuba, Japan)	175頁
A small island Taiwan makes a remote typhoon turn	K. Nakata ⁸⁵⁾ 、Y. Tachibana ⁸⁵⁾ 、K. Komatsu ⁸⁵⁾ 、M. Hara、K. Yamazaki ⁶¹⁾ 、K. Kodera ⁸⁴⁾	Abstract of the American Geophysical Union Fall meeting 2015, GC21C-1113 (2015) (15 Dec. 2015, San Francisco, USA)	176頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Long-term river discharge simulation using dataset derived by WRF model	X. Ma ⁸⁾ , S.A. Adachi ¹³⁾ , H. Kawase ¹⁴⁾ , T. Yoshikane ⁶⁷⁾ , M. Hara, C. Suzuki ⁸⁾	Abstract of the American Geophysical Union Fall meeting 2015, H51K-1548 (2015) (18 Dec. 2015, San Francisco, USA)	176頁
Comparison of chemical components of PM _{2.5} collected at six sites in Japan, China and South Korea in August, 2013	S. Yonemochi, S. Lu ¹⁰²⁾ , K.H. Lee ¹⁰⁵⁾ , K. Oh, H. Tanaka, Y. Yanagimoto ⁷¹⁾ , S. Oishi ⁷¹⁾ , T. Nagoya ⁷¹⁾ , H. Okochi ⁷¹⁾	Abstract of the 9th Asian Aerosol Conference (AAC2015), P1-028 (2015) (24 Jun. 2015, Kanazawa, Japan)	176頁
Differences of PAHs in Asian outflow simultaneously measured at Touji, China, Fukue and Cape Hedo, Japan	K. Shimada ⁶⁸⁾ , K. Miura ⁶⁸⁾ , A. Yoshino ⁶⁾ , A. Takami ⁶⁾ , K. Sato ⁶⁾ , S. Hasegawa, A. Fushimi ⁶⁾ , X. Yang ⁹⁷⁾ , X. Chen ⁹⁷⁾ , F. Meng ⁹⁷⁾ , S. Hatakeyama ⁶⁸⁾	Abstract of the 9th Asian Aerosol Conference (AAC2015), C218 (2015) (25 Jun. 2015, Kanazawa, Japan)	177頁
Variations of seasons, years, and areas and those factors of chemical components of PM _{2.5} in Saitama, Japan	S. Hasegawa, S. Yonemochi, R. Matsumoto	Abstract of the 9th Asian Aerosol Conference (AAC2015), P2-009 (2015) (25 Jun. 2015, Kanazawa, Japan)	177頁
Observation of acidic trace gases, gaseous mercury, and water-soluble inorganic aerosol species at the top and the foot of Mt. Fuji	S. Ogawa ⁷¹⁾ , H. Okochi ⁷¹⁾ , H. Ogata ⁷¹⁾ , T. Nagoya ⁷¹⁾ , H. Kobayashi ⁸¹⁾ , K. Miura ⁷⁰⁾ , Y. Minami ⁸⁰⁾ , S. Kato ⁶⁹⁾ , S. Yonemochi, N. Umezawa	Abstract of the Pacificchem 2015, ENVR646 (2015) (18 Dec. 2015, Hawaii, USA)	177頁
Observation of fine particles at the summit of Mt. Fuji, 2013-2015	S. Oishi ⁷¹⁾ , S. Yonemochi, M. Murata ⁷¹⁾ , H. Okochi ⁷¹⁾ , T. Nagoya ⁷¹⁾	Abstract of the Pacificchem 2015, ENVR666 (2015) (18 Dec. 2015, Hawaii, USA)	178頁
Phytoremediation potential of sorghum as a biofuel crop and the enhancement effects with microbe inoculation in heavy metal contaminated soil	K. Oh	Abstract of the 2015 Conference on Biodiversity and Ecosystems (Biology & Medicine & Chemistry), 26 (2015) (12-14 Jun. 2015, Suzhou, China)	178頁
Mercury contamination from artisanal and small-scale gold mining and the eco-friendly remediation solutions	K. Oh, S. Takahi ⁶²⁾	Abstract of the 2nd International Conference on Chemical and Food Engineering, 7 (2015) (6-7 Apr. 2015, Kyoto, Japan)	178頁
Recovery of environmental pollution and sustainable development in the mercury contaminated area with artisanal and small-scale gold mining in Southeast Asia	K. Oh, S. Takahi ⁶²⁾	Abstract of the 2016 International Conference on Food and Environmental Sciences, 64 (2016) (25 Feb. 2016, Ho Chi Minh, Vietnam)	179頁
Method comparison for the analysis of cyclic volatile methyl siloxanes in surface water and waste water treatment plant effluent	S.M. Knoerr ¹¹⁹⁾ , Y. Horii, K. Kobayashi ¹²⁰⁾ , N. Suganuma ¹²⁰⁾ , J.A. Durham ¹¹⁹⁾ , T.H. Schramke ¹¹⁹⁾	Abstract of the SETAC Europe 25th Annual Meeting, 291 (2015) (5 May 2015, Barcelona, Spain)	179頁
Phylogenetic characterization of microbial communities in Johkasou systems with and without iron electrolysis	I. Mishima, D. Inoue ⁷³⁾ , Y. Tabata ¹¹³⁾ , J. Nakajima ⁸⁷⁾	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2015, 33 (2015) (5 Aug. 2015, Tokyo, Japan)	179頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Development of an integrated environmental impact assessment model for assessing nitrogen emissions from wastewater treatment plants	I. Mishima, N. Yoshikawa ⁸⁷⁾ , Y. Yoshida ⁷²⁾ , K. Amano ⁸⁷⁾	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2015, 64 (2015) (6 Aug. 2015, Tokyo, Japan)	180頁
Evaluation of substances coexisting with volatile organic compounds in contaminated groundwater as a tracer for identifying the pollutant source	T. Kakimoto, S. Hachinohe, T. Ishiyama, H. Hamamoto	Abstract of the 26th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics, HW15p-320 (2015) (24 Jun. 2015, Prague, Czech Republic)	180頁
Land subsidence detected by persistent scatterer InSAR at Nakagawa lowland in the central part of the Kanto Plain, Japan	S. Hachinohe, Y. Morishita ¹²⁾ , H. Shiraishi	Abstract of the 26th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics, G07p-362 (2015) (26 Jun. 2015, Prague, Czech Republic)	180頁
Synthesis of subsurface temperature information and evaluation of the potential for setting up borehole heat exchanger in Obama plain, Japan	H. Hamamoto, Y. Miyashita ³²⁾ , D. Tahara ⁷⁹⁾ , M. Fujii ⁶¹⁾ , M. Taniguchi ¹⁵⁾	Abstract of the 26th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics, S13p-402 (2015) (30 Jun. 2015, Prague, Czech Republic)	181頁
Multiple-scale heat flow anomalies seaward of the Japan Trench associated with deformation of the incoming Pacific plate	M. Yamano ⁶⁷⁾ , Y. Kawada ⁸⁾ , L. Ray ¹¹¹⁾ , H. Hamamoto	Abstract of the 26th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics, IUGG-2315 (2015) (30 Jun. 2015, Prague, Czech Republic)	181頁
Evaluation of subsurface warming due to urbanization for sustainable management of urban groundwater resource in the Tokyo metropolitan area, Japan	A. Miyakoshi ⁷⁾ , T. Hayashi ⁶²⁾ , M. Kawai ³⁰⁾ , S. Kawashima ³⁰⁾ , K. Kokubun ³⁰⁾ , H. Hamamoto, S. Hachinohe	Abstract of the 42nd International Association of Hydrogeologists Congress, S3.2-249 (2015) (15 Sep. 2015, Rome, Italy)	181頁

(注) 執筆者の所属機関名は208ページに一覧にした。

5.4.3 総説・解説

(14件)

題名	執筆者	掲載誌	抄録
大気環境の現状と展望	坂本和彦	空気調和・衛生工学, Vol.89, No.12, 1059-1064 (2015)	182頁
埼玉県の温暖化・エネルギー対策	脇坂純一、嶋田知英	環境法研究, Vol.40, 93-114 (2015)	182頁
埼玉県環境科学国際センターの国際協力事業－中国山西省における水環境保全の取り組み－	高橋基之	OECC会報, No.75, 11 (2015)	182頁
埼玉県における適応策への取り組み	嶋田知英	日本不動産学会誌, Vol.29, No.1, 79-83 (2015)	183頁
PM2.5の概説と国内での季節的・地域的特徴	長谷川就一	クリーンテクノロジー, 2016年3月号, 64-67 (2016)	183頁
アスベスト含有建材の適正処理に向けて	渡辺洋一、川寄幹生、朝倉宏 ⁹⁴⁾	生活と環境, Vol.60, No.10, 55-60 (2015)	183頁
使いかけの化粧品はどのように捨てていますか～捨て方と適正処理～	川寄幹生	循環とくらし, No.6, 第2部, 50-55 (2015)	184頁
関東支部に所属する研究機関等の活動紹介	香村一夫 ⁷¹⁾ 、吉元直子 ¹¹⁴⁾ 、鈴木和将、落合知 ⁶⁾	廃棄物資源循環学会誌, Vol.26, No.5, 418-419 (2015)	184頁
埋立地ガス調査による廃棄物最終処分場の安全確認について	長森正尚、山田正人 ⁶⁾ 、石垣智基 ⁶⁾	廃棄物資源循環学会誌, Vol.27, No.1, 39-48 (2016)	184頁
電気探査による埋立地内部の可視化技術の紹介	磯部友護、川寄幹生、香村一夫 ⁷¹⁾	廃棄物資源循環学会誌, Vol.27, No.1, 49-56 (2016)	185頁

題 名	執 筆 者	掲 載 誌	抄録
Network Analystによるガス化改質施設・中継輸送施設の適地選定	鈴木和将	ArcGIS活用事例、Vol.12、4-5 (2016)	185頁
N ₂ Oと私、そして地環研	見島伊織	水環境学会誌、Vol.38(A)、No.9、345-349 (2015)	185頁
埼玉県の地盤沈下と最新の地盤変動計測技術	八戸昭一、森下遊 ¹²⁾	環境ニュース、Vol.148、2-7 (2015)	186頁
埼玉県における騒音・振動問題について	濱元栄起、白石英孝	環境ニュース、Vol.149、2-7 (2016)	186頁

(注) 執筆者の所属機関名は208ページに一覧にした。

5.4.4 国内学会発表

(74件)

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者	抄録
H27. 5. 22	日本気象学会2015年度春季大会	名古屋都市圏の将来温熱環境予測の不確実性の評価	原政之、足立幸穂 ¹³⁾ 、日下博幸 ⁶⁶⁾ 、木村富士男 ⁸⁾ 、高橋洋 ⁶⁹⁾ 、馬夔鈞 ⁸⁾	187頁
H27. 5. 23	第75回分析化学討論会	微小粒子状物質(PM _{2.5})汚染の現状と組成	坂本和彦	187頁
H27. 5. 25	日本地球惑星科学連合2015年大会 (千葉市)	名古屋都市圏における温熱環境の将来予測とその不確実性	原政之、足立幸穂 ¹³⁾ 、日下博幸 ⁶⁶⁾ 、木村富士男 ⁸⁾ 、高橋洋 ⁶⁹⁾ 、馬夔鈞 ⁸⁾	187頁
H27. 5. 26	日本地球惑星科学連合2015年大会 (千葉市)	Arsenic contained in the pore water of the natural sediments in the northern part of the Nakagawa Lowland, Japan	S. Hachinohe, S. Hossain ¹¹²⁾ , T. Ishiyama, H. Hamamoto, C.T. Oguchi ⁵⁾	203頁
H27. 5. 27	日本地球惑星科学連合2015年大会 (千葉市)	関東平野中央部および小浜平野における地中熱ポテンシャル評価と比較	濱元栄起、八戸昭一、白石英孝、石山高、宮越昭暢 ⁷⁾ 、宮下雄次 ³²⁾ 、田原大輔 ⁷⁹⁾	204頁
H27. 5. 27	日本地球惑星科学連合2015年大会 (千葉市)	首都圏における地下温度の経年的な上昇とその要因	宮越昭暢 ⁷⁾ 、林武司 ⁶²⁾ 、川合将文 ³⁰⁾ 、川島眞一 ³⁰⁾ 、国分邦紀 ³⁰⁾ 、濱元栄起、八戸昭一	204頁
H27. 5. 28	日本地球惑星科学連合2015年大会 (千葉市)	日本海溝アウターライズにおける熱流量の高密度測定:海洋地殻の破碎と間隙流体循環	山野誠 ⁶⁷⁾ 、川田佳史 ⁸⁾ 、濱元栄起	204頁
H27. 6. 19	第21回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会 (福岡市)	中国農用地土壌における有害重金属類の存在形態分析と植物への移行特性の解析	石山高、八戸昭一、濱元栄起	204頁
H27. 6. 24	第24回環境化学討論会 (札幌市)	埼玉県における大気および降下物中ダイオキシン類	養毛康太郎、大塚宜寿、野尻喜好、松本利恵	196頁
H27. 6. 24	第24回環境化学討論会 (札幌市)	II型共同研究で実施した大気中PFASs/PFCAsの一斉調査結果について	東條俊樹 ⁴⁸⁾ 、山本敦史 ⁴⁸⁾ 、茂木守、栗原正憲 ²⁸⁾ 、西野貴裕 ²⁹⁾ 、加藤みか ²⁹⁾ 、三島聡子 ³¹⁾ 、財原宏一 ³⁴⁾ 、長谷川瞳 ⁴²⁾ 、津田泰三 ⁴⁴⁾ 、一二三純子 ⁴⁵⁾ 、田中徳人 ⁴⁶⁾ 、伊藤耕二 ⁴⁶⁾ 、松村千里 ⁴⁹⁾ 、羽賀雄紀 ⁴⁹⁾ 、山本勝也 ⁴⁹⁾ 、八木正博 ⁵⁰⁾ 、宮脇崇 ⁵⁸⁾ 、柴田康行 ⁶⁾ 、橋本俊次 ⁶⁾ 、高澤嘉一 ⁶⁾	197頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H27. 6. 24	第24回環境化学討論会 (札幌市)	河川水／底質系による市販製品 中に含まれるフッ素テロマーアル コールの生分解	野尻喜好、茂木守、 堀井勇一	197頁
H27. 6. 24	第24回環境化学討論会 (札幌市)	農業排水路におけるネオニコチノ イド系殺虫剤の季節変動	大塚宜寿、野尻喜好、 蓑毛康太郎、茂木守、 堀井勇一	197頁
H27. 6. 24	第24回環境化学討論会 (札幌市)	埼玉県における野鳥の死亡と農 薬の関係	茂木守、野尻喜好、 大塚宜寿、蓑毛康太郎、 堀井勇一、益岡奈津樹 ¹⁾	197頁
H27. 6. 25	第24回環境化学討論会 (札幌市)	揮発性メチルシロキサン類の垂臨 界水中での分解挙動の解明	柿澤拓也 ⁷⁷⁾ 、倉田柚花 ⁷⁷⁾ 、 堀井勇一、堀久男 ⁷⁷⁾	198頁
H27. 6. 25	第24回環境化学討論会 (札幌市)	ベトナム、フィリピン、ガーナでの E-waste野焼き土壌における塩素 化および臭素化多環芳香族炭化 水素の発生状況	西村智椰 ⁸⁶⁾ 、堀井勇一、 川西理史 ⁸⁶⁾ 、田中周平 ⁸⁶⁾ 、 阿草哲郎 ⁹³⁾ 、板井啓明 ⁹³⁾ 、 鈴木剛 ⁶⁾ 、N.M. Tue ⁹³⁾ 、 K.A. Asante ¹²¹⁾ 、 F.C. Ballesteros Jr. ¹⁰⁹⁾ 、 P.H. Viet ¹⁰⁸⁾ 、高岡昌輝 ⁸⁶⁾ 、 高橋真 ⁹³⁾ 、田辺信介 ⁹³⁾ 、 滝上英孝 ⁶⁾ 、藤森崇 ⁸⁶⁾	198頁
H27. 6. 25	第24回環境化学討論会 (札幌市)	東京湾流域における揮発性メチ ルシロキサンの環境リスク評価	堀井勇一、蓑毛康太郎、 大塚宜寿、茂木守、野尻喜好	198頁
H27. 6. 25	第24回環境化学討論会 (札幌市)	埼玉県における大気中デクロラ ンブラスおよび類縁化合物の季節 変動ーダイオキシン類測定用抽 出液を用いた分析ー	蓑毛康太郎、野尻喜好、 茂木守、大塚宜寿、堀井勇一	198頁
H27. 6. 25	第24回環境化学討論会 (札幌市)	河川水／底質系におけるN-Et FOSEの長期生分解試験の検討	茂木守、野尻喜好、堀井勇一	199頁
H27. 7. 8	第52回アイソトープ・放射 線研究発表会(東京大学)	埼玉県内のモデル生態系(池) における各種試料中の放射能 (2013年)	三宅定明 ²⁾ 、長浜善行 ²⁾ 、 高瀬冴子 ²⁾ 、吉田栄充 ²⁾ 、 高野真理子 ²⁾ 、嶋田知英、 佐竹健太、細野繁雄	205頁
H27. 8. 28	第10回人工湿地ワークシ ョップ2015 (北海道中標津町)	中国山西省丹河人工湿地による 河川浄化・環境修復の取組み	柿本貴志、田中仁志、 木持謙、見島伊織、 池田和弘、渡邊圭司、 袁進 ¹⁰⁰⁾ 、朱文涛 ¹⁰⁰⁾ 、 喬曉榮 ¹⁰⁰⁾ 、齊朔風 ¹⁰⁰⁾	203頁
H27. 9. 2	第26回廃棄物資源循環学 会研究発表会(九州大学)	不燃ごみ中の化粧品・医薬品等 ごみの混入量調査	川寄幹生、鈴木和将、 磯部友護、渡辺洋一	194頁
H27. 9. 2	第26回廃棄物資源循環学 会研究発表会(九州大学)	焼却炉投入廃棄物と焼却灰中金 属濃度の関係ー木くず焼却の事 例ー	渡辺洋一	194頁
H27. 9. 3	第26回廃棄物資源循環学 会研究発表会(九州大学)	プラスチック等を含む廃棄物地盤 の沈下と水挙動に関する現場及 びカラム実験	山脇敦 ¹⁷⁾ 、土居洋一 ⁸²⁾ 、 川寄幹生、小林優子 ⁸²⁾	194頁
H27. 9. 4	第26回廃棄物資源循環学 会研究発表会(九州大学)	廃棄物ガス化改質技術を核とし た都市ガス製造システムの評価	鈴木和将、藤原健史 ⁹¹⁾ 、 川本克也 ⁹¹⁾	195頁
H27. 9. 4	第26回廃棄物資源循環学 会研究発表会(九州大学)	廃棄物最終処分場内部における 間隙構造の可視化と間隙中流れ の数値的研究	鈴木和将、水藤寛 ⁹¹⁾	195頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H27. 9. 14	第18回日本水環境学会シンポジウム (信州大学)	東京湾流域における揮発性メチルシロキサンの環境汚染実態	堀井勇一、蓑毛康太郎、大塚宜寿、茂木守、野尻喜好	199頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	炭素成分に着目した埼玉県におけるPM _{2.5} の季節比較と高濃度日の特徴	長谷川就一、城裕樹 ⁴⁾ 、米持真一	188頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	富士山体を利用した自由対流圏大気中酸性ガス、ガス状水銀および水溶性エアロゾルの観測	小川智司 ⁷¹⁾ 、大河内博 ⁷¹⁾ 、緒方裕子 ⁷¹⁾ 、名古屋俊士 ⁷¹⁾ 、皆已幸也 ⁸⁰⁾ 、小林拓 ⁸¹⁾ 、三浦和彦 ⁷⁰⁾ 、加藤俊吾 ⁶⁹⁾ 、米持真一、梅沢夏実	188頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	炭を用いた大気中水銀モニタリング手法に関する研究	大熊明大 ⁷⁴⁾ 、梅沢夏実、佐竹研一 ⁷⁴⁾	188頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	2014年5、6月におけるPM _{2.5} 高濃度事例の解析	寺本佳宏 ⁴³⁾ 、遠藤昌樹 ²⁴⁾ 、熊谷貴美代 ²⁷⁾ 、長谷川就一、宮田朋子 ³⁸⁾ 、花岡良信 ³⁹⁾ 、山神真紀子 ⁴²⁾ 、橋本貴世 ⁵⁶⁾ 、中島亜矢子 ⁵⁹⁾ 、菅田誠治 ⁶⁾	188頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	2015年2、3月におけるPM _{2.5} 高濃度事例の解析	山神真紀子 ⁴²⁾ 、寺本佳宏 ⁴³⁾ 、牧野雅英 ³⁸⁾ 、木下誠 ⁵⁹⁾ 、木戸瑞佳 ³⁶⁾ 、長谷川就一、菅田誠治 ⁶⁾	189頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	全国PM _{2.5} 成分測定結果から見た高濃度日における地域別化学組成の特徴(第2報)	熊谷貴美代 ²⁷⁾ 、田子博 ²⁷⁾ 、山神真紀子 ⁴²⁾ 、寺本佳宏 ⁴³⁾ 、橋本貴世 ⁵⁶⁾ 、牧野雅英 ³⁸⁾ 、木下誠 ⁵⁹⁾ 、佐久間隆 ²³⁾ 、長谷川就一、菅田誠治 ⁶⁾	189頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	埼玉県北部におけるPM _{2.5} 中の一次排出/二次生成指標成分の季節変化	佐坂公規、米持真一、長谷川就一、梅沢夏実、松本利恵、野尻喜好、竹内庸夫、坂本和彦	189頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	さいたま市におけるPM ₁ 、PM _{2.5} 調査について	城裕樹 ⁴⁾ 、米持真一、長谷川就一	189頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	PM _{2.5} 質量濃度自動測定機の維持管理のための空試験データの有効活用法の検討	板野泰之 ⁴⁸⁾ 、山神真紀子 ⁴²⁾ 、長谷川就一、田子博 ²⁷⁾ 、長田健太郎 ⁵⁵⁾ 、鈴木義浩 ³⁴⁾ 、秋山雅行 ²⁰⁾ 、山川和彦 ⁴⁵⁾ 、菅田誠治 ⁶⁾	190頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	埼玉県における県民参加を主体としたオゾンによるアサガオ被害調査	三輪誠	193頁
H27. 9. 15	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	植物に対する低線量環境放射線の影響(3)	青野光子 ⁶⁾ 、三輪誠、渡邊稔 ²⁵⁾ 、木賊幸子 ²⁵⁾ 、佐藤修也 ²⁵⁾ 、中村佐知子 ⁴⁰⁾ 、尾川成彰 ⁵²⁾ 、岡村祐里子 ⁴²⁾ 、中島寛則 ⁴²⁾ 、須田隆一 ⁵⁸⁾ 、武直子 ¹⁹⁾ 、石庭寛子 ⁶⁾ 、佐野友春 ⁶⁾ 、永野公代 ⁶⁾ 、玉置雅紀 ⁶⁾ 、中嶋信美 ⁶⁾ 、久保明弘 ⁶⁾ 、佐治光 ⁶⁾	193頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	全国酸性雨調査(92)－乾性沈着(沈着量の推計)－	松本利恵、遠藤朋美 ³⁵⁾ 、福田裕 ⁵⁴⁾ 、野口泉 ²⁰⁾ 、松田和秀 ⁶⁸⁾	190頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	光学的方法によるブラックカーボ ン粒子濃度の全国調査(3)	松本利恵、野口泉 ²⁰⁾ 、 恵花孝昭 ²¹⁾ 、横山新紀 ²⁸⁾ 、 木戸瑞佳 ³⁶⁾ 、中島寛則 ⁴²⁾ 、 山神真紀子 ⁴²⁾ 、竹友優 ⁵¹⁾ 、 武市佳子 ⁵⁷⁾ 、船木大輔 ⁵³⁾ 、 濱村研吾 ⁵⁸⁾ 、岩崎綾 ⁶⁰⁾ 、 村尾直人 ⁶¹⁾	190頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	大気中酸化態窒素成分濃度およ び沈着量の評価	野口泉 ²⁰⁾ 、山口高志 ²⁰⁾ 、 松本利恵、岩崎綾 ⁶⁰⁾ 、 森下一行 ⁴¹⁾ 、堀江洋佑 ⁴⁹⁾ 、 竹友優 ⁵¹⁾ 、竹中規訓 ⁸⁸⁾	190頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	大気中HONOの生成について	野口泉 ²⁰⁾ 、山口高志 ²⁰⁾ 、 鈴木啓明 ²⁰⁾ 、松本利恵、 岩崎綾 ⁶⁰⁾ 、竹中規訓 ⁸⁸⁾	191頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	大気中水銀測定～より正しい濃 度を測定するために～	梅沢夏実	191頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	日中韓PM2.5同時観測試料にお ける金属元素成分の比較	米持真一、S. Lu ¹⁰²⁾ 、 K.H. Lee ¹⁰⁵⁾ 、大石沙紀 ⁷¹⁾ 、 大河内博 ⁷¹⁾ 、名古屋俊士 ⁷¹⁾ 、 梅沢夏実、田中仁志、王効挙	191頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	都市大気環境中におけるナノ粒 子の動向(2)	大石沙紀 ⁷¹⁾ 、深尾加奈子 ⁷¹⁾ 、 松永昂樹 ⁷¹⁾ 、米持真一、 村田克 ⁷¹⁾ 、大河内博 ⁷¹⁾ 、 名古屋俊士 ⁷¹⁾	191頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	富士山における微小粒子の観測	大石沙紀 ⁷¹⁾ 、深尾加奈子 ⁷¹⁾ 、 松永昂樹 ⁷¹⁾ 、米持真一、 村田克 ⁷¹⁾ 、大河内博 ⁷¹⁾ 、 名古屋俊士 ⁷¹⁾	192頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	2014年4月におけるPM2.5高濃度 事例の解析	橋本貴世 ⁵⁶⁾ 、山神真紀子 ⁴²⁾ 、 武田麻由子 ³¹⁾ 、 熊谷貴美代 ²⁷⁾ 、寺本佳宏 ⁴³⁾ 、 宮田朋子 ³⁸⁾ 、長谷川就一、 菅田誠治 ⁶⁾	192頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	2014年7月におけるPM2.5高濃度 事例の解析	遠藤昌樹 ²⁴⁾ 、浅川大地 ⁴⁸⁾ 、 熊谷貴美代 ²⁷⁾ 、 山神真紀子 ⁴²⁾ 、橋本貴世 ⁵⁶⁾ 、 小泉英誉 ²²⁾ 、武田麻由子 ³¹⁾ 、 牧野雅英 ³⁸⁾ 、花岡良信 ³⁹⁾ 、 梶田奈穂子 ⁴¹⁾ 、長谷川就一、 菅田誠治 ⁶⁾	192頁
H27. 9. 16	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	全国常時監視データを用いた PM2.5汚染状況の考察	長谷川就一、桶谷嘉一 ⁵¹⁾ 、 菅田誠治 ⁶⁾	192頁
H27. 9. 17	第56回大気環境学会年会 (早稲田大学)	堂平山観測所における二酸化炭 素高濃度事例と排出量との関係 について	武藤洋介	187頁
H27. 9. 29	日本陸水学会第80回大会 (北海道大学)	環境教育教材の作成を目的とし た中国山西省沁河における水質 調査	渡邊圭司、木持謙、王効挙、 田中仁志、袁進 ¹⁰⁰⁾ 、 喬曉榮 ¹⁰⁰⁾ 、李超 ¹⁰⁰⁾ 、 恵曉梅 ¹⁰⁰⁾ 、齊朔風 ¹⁰⁰⁾	200頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H27. 9. 29	日本陸水学会第80回大会 (北海道大学)	埼玉県と姉妹友好省中国山西省 との水環境保全モデル事業の概 要及び沁河における水生生物調 査	田中仁志、木持謙、 渡邊圭司、王効挙、袁進 ¹⁰⁰ 、 李超 ¹⁰⁰ 、喬曉榮 ¹⁰⁰ 、 惠曉梅 ¹⁰⁰ 、齊朔風 ¹⁰⁰	200頁
H27. 9. 29	日本陸水学会第80回大会 (北海道大学)	脂肪酸バイオマーカーを用いた インガイ科二枚貝類の同化餌源 の推定	藤林恵 ⁶⁴ 、西尾正輝 ³⁷ 、 西村修 ⁶⁴ 、田中仁志	200頁
H27. 9. 29	日本陸水学会第80回大会 (北海道大学)	河川の生態影響評価に向けた水 生昆虫の生息実態調査手法の提 案	相子伸之 ⁴⁶ 、矢吹芳教 ⁴⁶ 、 大塚宜寿、田中仁志	200頁
H27. 10. 18	日本微生物生態学会第30 回大会 (土浦市)	埼玉県内河川を対象とした培養 法で検出される浮遊細菌の特徴	渡邊圭司、池田和弘、 柿本貴志、見島伊織、 高橋基之	201頁
H27. 11. 22	第21回「野生生物と社会」 学会大会 (琉球大学)	ため池の管理放棄と改廃による 生態系影響～人口減少で何が起 きるか？	角田裕志	193頁
H27. 11. 28	第52回環境工学研究フォー ラム (日本大学)	TOC計による懸濁態有機炭素の 測定に関するいくつかの検討	池田和弘、高橋基之、 柿本貴志、見島伊織、 渡邊圭司	201頁
H28. 1. 21	第37回全国都市清掃研究 ・事例発表会 (周南市)	不燃ごみ中の化粧品・医薬品等 容器内の残存量について	川寄幹生、鈴木和将、 磯部友護、渡辺洋一	195頁
H28. 1. 21	第37回全国都市清掃研究 ・事例発表会 (周南市)	場内観測井を用いた埋立地ガス 調査—スリランカ国の高温多雨地 域を対象に—	長森正尚、渡辺洋一、 磯部友護、川本健 ⁵	195頁
H28. 1. 21	第37回全国都市清掃研究 ・事例発表会 (周南市)	産業廃棄物焼却残渣中の金属含 有量と業種別特性解析事例	渡辺洋一	196頁
H28. 1. 21	第37回全国都市清掃研究 ・事例発表会 (周南市)	プラスチック等が混入した廃棄物 層の沈下と水挙動に関する現場 実験等	山脇敦 ¹⁷ 、土居洋一 ⁸² 、 大嶺聖 ⁹⁴ 、川寄幹生	196頁
H28. 1. 22	第37回全国都市清掃研究 ・事例発表会 (周南市)	埋立廃棄物の質的变化に対応し た埋立地の安定化評価に関する 基礎的研究	磯部友護、川寄幹生、 渡辺洋一	196頁
H28. 3. 15	第43回土木学会関東支部 技術研究発表会 (東京都市大学)	AOB優占種の異なる汚泥を用い た回分試験によるN ₂ O生成に与 えるpH・水温の影響	大塚将吾 ⁷² 、吉田征史 ⁷² 、 齋藤利晃 ⁷² 、見島伊織	201頁
H28. 3. 16	第50回日本水環境学会年 会 (徳島市)	生活排水を用いた水温変動条件 下の高度処理浄化槽の省エネ運 転操作技法の開発	岩崎真 ⁶⁶ 、木持謙、 稲森隆平 ¹⁸ 、徐開欽 ⁶ 、 佐竹隆顕 ⁶⁶ 、稲森悠平 ¹⁸	201頁
H28. 3. 16	第50回日本水環境学会年 会 (徳島市)	淡水二枚貝インガイの保護を 目的とした実験水槽を用いた培養 藻類の給餌実験	田中仁志、田中大祐 ⁷⁸ 、 酒徳昭宏 ⁷⁸ 、西尾正輝 ³⁷ 、 藤林恵 ⁶³ 、西村修 ⁶⁴ 、 河地正伸 ⁶	202頁
H28. 3. 16-17	第50回日本水環境学会年 会 (徳島市)	イタセンバラとインガイ科二枚貝 が生息する富山県下の小河川に おける真核微生物群集構造の解 析	田中大祐 ⁷⁸ 、能村典未 ⁷⁸ 、 新田杏菜 ⁷⁸ 、田中仁志、 西尾正輝 ³⁷ 、山崎裕治 ⁷⁸ 、 酒徳昭宏 ⁷⁸ 、中村省吾 ⁷⁸	202頁
H28. 3. 16-17	第50回日本水環境学会年 会 (徳島市)	POCIS法におけるネオニコチノイ ド系殺虫剤のRs値の算出方法	大塚宜寿、田中仁志、 相子伸之 ⁴⁶ 、矢吹芳教 ⁴⁶ 、 小野純子 ⁴⁶	199頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H28. 3. 16-17	第50回日本水環境学会年会 (徳島市)	パッシブサンプラーによる環境水中のネオニコチノイド系殺虫剤のモニタリング	矢吹芳教 ⁴⁶⁾ 、小野純子 ⁴⁶⁾ 、 相子伸之 ⁴⁶⁾ 、大塚宜寿、 田中仁志	199頁
H28. 3. 16-17	第50回日本水環境学会年会 (徳島市)	中国山西省丹河の河川水質特性と水質改善に向けた課題－国際共同研究事業を振り返って－	柿本貴志、池田和弘、 見島伊織、高橋基之、 田中仁志、袁進 ¹⁰⁰⁾ 、 朱文涛 ¹⁰⁰⁾ 、喬曉榮 ¹⁰⁰⁾ 、 齊朔風 ¹⁰⁰⁾	202頁
H28. 3. 16-17	第50回日本水環境学会年会 (徳島市)	中国山西省沁河における河川環境と魚類等の生息状況	木持謙、渡邊圭司、王効挙、 田中仁志、袁進 ¹⁰⁰⁾ 、 喬曉榮 ¹⁰⁰⁾ 、李超 ¹⁰⁰⁾ 、 恵曉梅 ¹⁰⁰⁾ 、齊朔風 ¹⁰⁰⁾	202頁
H28. 3. 17	第50回日本水環境学会年会 (徳島市)	アルカリ天然素材を用いた海成堆積物の長期汚染リスク対策手法の開発	石山高、八戸昭一、 濱元栄起	205頁
H28. 3. 18	第50回日本水環境学会年会 (徳島市)	固定床を用いた部分硝化・アナモックス反応による窒素除去特性	見島伊織、M. Hoekstra ¹⁰⁶⁾ 、 J. Perez ¹⁰⁶⁾ 、 M.C.M. van Loosdrecht ¹⁰⁶⁾	203頁
H28. 3. 18	第50回日本水環境学会年会 (徳島市)	中国山西省丹河人工湿地の有機物および窒素除去特性	池田和弘、見島伊織、 柿本貴志、田中仁志、 高橋基之、袁進 ¹⁰⁰⁾ 、 朱文涛 ¹⁰⁰⁾ 、喬曉榮 ¹⁰⁰⁾ 、 齊朔風 ¹⁰⁰⁾	203頁
H28. 3. 24	第63回日本生態学会大会 (仙台市)	琵琶湖における外来魚オオクチバスの侵入が在来魚食魚ハスに与えた影響	角田裕志、大平充 ⁶⁸⁾ 、 浦野隆弘 ⁶⁸⁾	193頁
H28. 3. 24	第63回日本生態学会大会 (仙台市)	埼玉県の荒川及び新河岸川の感潮域で発見された特定外来生物イガイ科カワヒバリガイについて	金澤光	194頁

(注) 共同研究者の所属機関名は208ページに一覧にした。

5.4.5 その他の研究発表

(38件)

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H27. 5. 29	廃棄物資源循環学会平成27年度第1回セミナー－廃棄物処理と資源循環の課題と展望－ (川崎市)	埋立地内部を可視化する－電気探査法を中心として－	磯部友護
H27. 6. 8	The 36 th International Symposium on Environmental Issues 'Current Status and Prospect of Sustainable Environmental Technology' (Gyeongbuk, Korea)	Approach to biodiversity conservation in Japan: Habitat survey and conservation activities research of freshwater shellfish	O. Nishimura ⁶⁴⁾ 、 H. Tanaka
H27. 6. 27	2015(平成27)年度海外学術調査フォーラム (東京外国語大学)	東南アジアにおける水銀利用による環境汚染の回復と持続的産業発展に関する研究	高樋さち子 ⁶²⁾ 、王効挙
H27. 7. 10	埼玉県下水道公社第26回調査研究事業報告会 (戸田市)	埼玉県内の流域下水道におけるN ₂ O発生量の把握と発生抑制方法の基礎的検討に関する研究	見島伊織

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H27. 7. 15	平成27年度全国環境研協議会関東甲信静支部騒音振動専門部会（横浜市）	配水施設から発生する低周波音の調査事例	白石英孝
H27. 9. 3	平成27年度全国環境研協議会廃棄物資源循環学会年会併設研究発表会（九州大学）	地方環境研究所の廃棄物担当で求められる分析－埼玉県の例－	渡辺洋一
H27. 9. 7	環境科学会2015年会企画シンポジウム「水・エネルギー・食料連環問題の解決に向けたトランスディシプリナリー的アプローチ：福井県小浜市におけるケーススタディ」(大阪大学)	小浜平野における自噴井湧出機構と地中熱利用について	宮下雄次 ³²⁾ 、濱元栄起、山田誠 ¹⁵⁾ 、田原大輔 ⁷⁹⁾
H27. 9. 9	法政大学『レジリエントシティ』ワークショップ（法政大学）	埼玉県における気候変動適応策への取り組み	嶋田知英
H27. 9. 29	Mini symposium at FCUB (Belgrade, Serbia)	Occurrence of neonicotinoid insecticides in river water in Saitama Prefecture, Japan	N. Ohtsuka
H27. 9. 30	Workshop at Institute TAMIS in Pancevo City (Pančevo, Serbia)	Occurrence of neonicotinoid insecticides in river water in Saitama Prefecture, Japan	N. Ohtsuka
H27. 10. 15	Ⅱ型共同研究推進会議「国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明」(福岡市)	大気中HBCDの測定－ダイオキシン類抽出液の活用－	野尻喜好
H27. 10. 16	Ⅱ型共同研究推進会議「国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明」(福岡市)	埼玉県内の河川水における有機フッ素化合物濃度の推移	茂木守
H27. 10. 23	平成27年度環境研究総合推進費研究成果発表会（東京都千代田区）	新規環境汚染物質？シリコーン化合物の環境汚染実態を探る	堀井勇一
H27. 10. 23	平成27年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会（長野市）	埼玉県内河川における水質の状況と水生生物生息環境の保全	木持謙
H27. 11. 4	環太平洋ネクサスプロジェクト第3回全体会議(岩手県大槌町)	地中熱利用についての評価(小浜と大槌)	濱元栄起、宮下雄次 ³²⁾ 、田原大輔 ⁷⁹⁾ 、藤井賢彦 ⁶¹⁾
H27. 11. 4	環太平洋ネクサスプロジェクト第3回全体会議(岩手県大槌町)	自噴地域における水・エネルギー連環による地下水保全手法の開発と実証に関する研究－小浜・大槌・西条自噴域湧水の地中熱利用と地下水保全－	宮下雄次 ³²⁾ 、濱元栄起、田原大輔 ⁷⁹⁾ 、河村知彦 ⁶⁷⁾ 、澤館隆宏 ⁶¹⁾
H27. 11. 5	統計数理研究所研究報告会（立川市）	揮発性メチルシロキサン <small>（メチルシロキサン）</small> の環境汚染実態	堀井勇一
H27. 11. 5	統計数理研究所研究報告会（立川市）	埼玉県におけるネオニコチノイド系農薬の汚染実態	大塚宜寿
H27. 11. 5	統計数理研究所研究報告会（立川市）	埼玉県の大気中Dechlorane Plus	蓑毛康太郎

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H27. 11. 5	第18回自然系調査研究機 関連連絡会議調査研究・活 動事例発表会（千葉市）	ニホンジカによる森林生態系影響の広域評 価	角田裕志
H27. 11. 13	デクロランプラス研究会 （大阪市）	埼玉県の大気中Dechlorane Plusおよび類 縁化合物	蓑毛康太郎、茂木守、 野尻喜好、大塚宜寿、 堀井勇一
H27. 11. 13	平成27年度全国環境研協 議会関東甲信静支部大気 専門部会（静岡市）	中国および韓国済州島におけるPM2.5に含 まれる化学成分の特徴と越境大気汚染の 指標成分	米持真一
H27. 11. 18	ホンダY-E-Sフォーラム （東京大学）	Hydrology and water quality variations in open dumpsites: A case study in Sri Lanka	U. Kumarasinghe ⁵⁾ , M.I.M. Mowjood ¹²³⁾ , Y. Inoue ⁵⁾ , M. Nagamori, Y. Sakamoto ⁷⁾ , T. Saito ⁵⁾ , K. Kawamoto ⁵⁾
H27. 11. 20	地下水地盤環境・防災・ 計測技術に関するシンポ ジウム2015 （大阪市立大学）	大阪平野における地下温暖化の実態	有本弘孝 ¹¹⁸⁾ 、谷口真人 ¹⁵⁾ 、 濱元栄起、岸本安弘 ¹⁶⁾ 、 水間健二 ⁴⁷⁾ 、小林晃 ⁸⁹⁾
H27. 12. 1	第42回環境保全・公害防 止研究発表会 （東京都文京区）	PUF小片を用いた水試料中ダイオキシン類 の抽出について	野尻喜好、蓑毛康太郎、 大塚宜寿
H27. 12. 2	第42回環境保全・公害防 止研究発表会 （東京都文京区）	埼玉県におけるPM2.5成分の季節・年度・地 域変動とその要因	長谷川就一、米持真一、 松本利恵
H27. 12. 2	第42回環境保全・公害防 止研究発表会 （東京都文京区）	埼玉県および姉妹友好省中国山西省との 水環境保全モデル事業	田中仁志、池田和弘、 木持謙、見島伊織、 柿本貴志、渡邊圭司、 王効挙、高橋基之
H28. 1. 26	文部科学省 気候変動適 応技術社会実装プログラ ム(SI-CAT)公開シンポジ ウム（東京都港区）	埼玉県における適応策への取り組みと社会 実装	嶋田知英
H28. 2. 18	第31回全国環境研究所交 流シンポジウム(つくば市)	埼玉県における温暖化適応策への取り組 み	嶋田知英
H28. 2. 19	第31回全国環境研究所交 流シンポジウム(つくば市)	地方環境研究所における国際環境協力 埼玉県環境科学国際センターの事例から ー	高橋基之
H28. 2. 27	ムサシトミヨ繁殖報告会 （熊谷市）	ムサシトミヨ生息地下流の魚類相について	金澤光
H28. 3. 9	中日水環境保護技術報告 会（中国山西省太原市）	晋城市沁河流域水生生物調査	田中仁志、木持謙
H28. 3. 12	川のシンポジウム2016「元 小山川を取り巻く環境に ついて」（本庄市）	元小山川の外来生物について 里川再生の今とこれから	金澤光 木持謙
H28. 3. 13	第9回富士山測候所を活 用する会成果報告会 （東京大学）	富士山頂で日単位で採取したPM2.5の化学 組成と起源	米持真一、大河内博 ⁷¹⁾ 、 廣川諒祐 ⁷¹⁾ 、大石沙紀 ⁷¹⁾ 、 緒方裕子 ⁷¹⁾ 、 名古屋俊士 ⁷¹⁾ 、 K.H. Lee ¹⁰⁵⁾ 、C.G. Hu ¹⁰⁵⁾

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H28. 3. 13	第9回富士山測候所を活用する会成果報告会 (東京大学)	富士山体を利用した自由対流圏大気中酸性ガス、ガス状水銀および水溶性エアロゾルの観測	小川智司 ⁷¹⁾ 、大河内博 ⁷¹⁾ 、 緒方裕子 ⁷¹⁾ 、 名古屋俊士 ⁷¹⁾ 、 皆已幸也 ⁸⁰⁾ 、小林拓 ⁸¹⁾ 、 三浦和彦 ⁷⁰⁾ 、加藤俊吾 ⁶⁹⁾ 、 米持真一、梅沢夏実
H28. 3. 13	第9回富士山測候所を活用する会成果報告会 (東京大学)	富士山における大気中PAHsの観測	小野一樹 ⁷¹⁾ 、大河内博 ⁷¹⁾ 、 緒方裕子 ⁷¹⁾ 、皆已幸也 ⁸⁰⁾ 、 米持真一、竹内政樹 ⁹²⁾ 、 名古屋俊士 ⁷¹⁾
H28. 3. 13	第9回富士山測候所を活用する会成果報告会 (東京大学)	富士山における大気中微小粒子および超微小粒子の観測	松永昂樹 ⁷¹⁾ 、大河内博 ⁷¹⁾ 、 緒方裕子 ⁷¹⁾ 、大石沙紀 ⁷¹⁾ 、 米持真一、皆已幸也 ⁸⁰⁾ 、 名古屋俊士 ⁷¹⁾
H28. 3. 13	第20回荒川流域再生シンポジウム「入間川での遡上環境再生事業を越辺川水系に繋げていこう」 (嵐山町)	2015年度のアユ遡上調査の結果報告と越辺川水系の遡上調査結果	金澤光

(注) 共同研究者の所属機関名は208ページに一覧にした。

5.4.6 報告書

(8件)

報告書名	発行者	執筆担当	執筆者	発行年	抄録
The First Global Integrated Marine Assessment - World Ocean Assessment 1	United Nations	全章	L. Inniss ⁹⁶⁾ A. Simcock ⁹⁶⁾ A.Y. Ajawin ⁹⁶⁾ A.C. Alcala ⁹⁶⁾ P. Bernal ⁹⁶⁾ H.P. Calumpong ⁹⁶⁾ P.E. Araghi ⁹⁶⁾ S.O. Green ⁹⁶⁾ P. Harris ⁹⁶⁾ O.K. Kamara ⁹⁶⁾ K. Kohata E. Marschoff ⁹⁶⁾ G. Martin ⁹⁶⁾ B.P. Ferreira ⁹⁶⁾ C. Park ⁹⁶⁾ R.A. Payet ⁹⁶⁾ J. Rice ⁹⁶⁾ A. Rosenberg ⁹⁶⁾ R. Ruwa ⁹⁶⁾ J.T. Tuhumwire ⁹⁶⁾ S.V. Gaever ⁹⁶⁾ J. Wang ⁹⁶⁾ J.M. Węślawski ⁹⁶⁾	H28	206頁
ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050推進事業 平成26年度二酸化炭素濃度観測結果	埼玉県環境部温暖化対策課、 埼玉県環境科学国際センター	全章	武藤洋介	H27	206頁

報告書名	発行者	執筆担当	執筆者	発行年	抄録
ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050推進事業 埼玉県温室効果ガス排出量推計 報告書2013年度速報値	埼玉県環境部温暖 化対策課、 埼玉県環境科学国 際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 原政之	H27	206頁
ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050推進事業 埼玉県温度実態調査報告書(平 成26年度)	埼玉県環境部温暖 化対策課、 埼玉県環境科学国 際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 高橋基之	H27	206頁
ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050推進事業 埼玉縣市町村温室効果ガス排 出量推計報告書2013年度	埼玉県環境部温暖 化対策課、 埼玉県環境科学国 際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 原政之	H28	207頁
第5次酸性雨全国調査報告書 (平成25年度)	全国環境研協議会 酸性雨広域大気汚 染調査研究部会	5.3 乾性沈着量 の推計 (pp.34~40)	松本利恵	H27	207頁
第5回MLAP技能試験報告書	(一社)日本環境測 定分析協会	全章	大塚宜寿 井垣浩侑 ¹¹⁶⁾ 岩木和夫 ⁷⁶⁾ 岡澤剛 ¹¹⁾ 加藤美一 ³³⁾ 上東浩 ¹¹⁷⁾ 高菅卓三 ¹¹⁷⁾ 津越敬寿 ⁷⁾ 山崎正夫 ²⁹⁾	H28	207頁
中国山西省晋城市沁河流域の水 生生物調査図録	環境科学国際セン ター、 山西省生態環境研 究センター	全章	木幡邦男 高橋基之 田中仁志 王効挙 木持謙 渡邊圭司 見島伊織 池田和弘 柿本貴志 袁進 ¹⁰⁰⁾ 喬曉榮 ¹⁰⁰⁾ 李超 ¹⁰⁰⁾ 齊朔風 ¹⁰⁰⁾ 惠曉梅 ¹⁰⁰⁾ 楊凱 ¹⁰⁰⁾ 李喬 ¹⁰⁰⁾ 何泓 ¹⁰⁰⁾ 張瑤 ¹⁰⁰⁾	H28	207頁

(注) 共同執筆者の所属機関名は208ページに一覧にした。

5.4.7 書籍

(1件)

書籍名	出版社	執筆分担	執筆者	発行年
廃棄物関連試料の分析マニュアル	(一社)廃棄物資源 循環学会	第2章 廃棄物の最終処分方法(pp. 9-30) 第7章 測定方法 7.3.4 PCB(ポリ塩 化ビフェニル)(pp.264-283)	渡辺洋一	H27

5.4.8 センター報

(7件)

種 別	課 題 名	執 筆 者	掲 載 号
研究報告	土壌中重金属類の溶出特性解析とそれに基づく土壌汚染の類型化	石山高、八戸昭一、濱元栄起、白石英孝、細野繁雄、河村清史 ⁵⁾	第15号、126-131 (2015)
資料	埼玉県における大気中 <i>p</i> -ジクロロベンゼンの濃度特性	竹内庸夫、佐坂公規、松本利恵	第15号、132-135 (2015)
資料	廃棄物焼却炉から排出される揮発性有機化合物の挙動	竹内庸夫	第15号、136-142 (2015)
資料	埼玉県内の一般廃棄物焼却施設におけるごみ発電による温室効果ガス排出削減効果	倉田泰人	第15号、143-147 (2015)
資料	埼玉県の荒川及び新河岸川の感潮域で発見された特定外来生物イガイ科カワヒバリガイについて	金澤光	第15号、148-151 (2015)
資料	埼玉県に侵入した外来甲殻類ヌマエビ科カワリヌマエビ属の現状について	金澤光	第15号、152-156 (2015)
資料	埼玉県内流域における土地利用の状況	柿本貴志	第15号、157-165 (2015)

(注) 共同執筆者の所属機関名は208ページに一覧にした。

5.5 講師・客員研究員等

(1) 大学非常勤講師

(13 件)

期 日	講 義 内 容	講義場所	氏 名
H27 年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授(連携大学院) 「海洋環境学特論」「環境総合評価特別輪講Ⅱ」	埼玉大学	木幡邦男
H27 年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「自然環境評価特論」、「大気環境測定演習」、「汚染負荷評価」	埼玉大学、 環境科学国際 センター	三輪誠
H27 年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「環境計測学」「水環境汚染評価」「土壌・地下水汚染特論」	埼玉大学	石山高
H27 年度前期	埼玉大学工学部非常勤講師 「有機化学概論」	埼玉大学	米持真一
H27 年度前期	法政大学生命科学部非常勤講師 「環境安全化学」	法政大学	米倉哲志
H27 年度前期	東京家政大学家政学部・人文学部非常勤講師 「自然の探求(a)自然と倫理」	東京家政大学	角田裕志
H27 年 8 月	名城大学農学部非常勤講師 「野生動物管理論」	名城大学	角田裕志
H27 年度後期	東洋大学理工学部非常勤講師 「水環境学／水環境化学」	東洋大学	高橋基之
H27 年度後期	高崎経済大学地域政策学部非常勤講師 「物質と環境／自然科学概論」	高崎経済大学	長谷川就一
H27 年度後期	埼玉大学工学部非常勤講師 「水環境学」	埼玉大学	柿本貴志 池田和弘 木持謙
H27 年度後期	日本大学文理学部非常勤講師「環境地質学」	日本大学	八戸昭一
H27. 12. 7	早稲田大学大学院創造理工学研究科招聘講師 「環境学特論B／日本の水質環境基準とその課題」	早稲田大学	高橋基之
H28. 1. 14	明星大学理工学部非常勤講師 「アジア地域における水環境の現状と保全・修復のための国際協力」	明星大学	木持謙

(2) 客員研究員

(14 件)

相手機関	委 嘱 期 間	氏 名
国立研究開発法人 海洋研究開発機構	H27. 4. 1～H28. 3.31	原政之
国立研究開発法人 国立環境研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	長谷川就一
中国遼寧石油化大生態環境研究院	H24.10. 1～	王効挙
中国荷澤学院	H27.10.12～	王効挙
国立研究開発法人 国立環境研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	渡辺洋一
国立研究開発法人 国立環境研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	長森正尚
国立研究開発法人 国立環境研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	川寄幹生
国立研究開発法人 国立環境研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	長谷隆仁
国立研究開発法人 国立環境研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	磯部友護
国立研究開発法人 国立環境研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	木持謙
立命館大学	H27. 4. 1～H28. 3.31	見島伊織
国立研究開発法人 国立環境研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	渡邊圭司
東京大学地震研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	濱元栄起
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	H27. 4. 1～H28. 3.31	濱元栄起

(3) 国、地方自治体の委員会等の委員委嘱

(44 件)

委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
中央環境審議会	環境省	H27. 2. 8～H29. 2. 7	坂本和彦
中央環境審議会大気騒音・振動部会	環境省水・大気環境局	H27. 2.13～H29. 2. 7	坂本和彦
中央環境審議会大気騒音・振動部会微小粒子状物質等専門委員会	環境省水・大気環境局	H27. 2.25～H29. 2. 7	坂本和彦
中央環境審議会大気騒音・振動部会自動車排出ガス専門委員会	環境省水・大気環境局	H27. 3.17～H29. 2. 7	坂本和彦
放射性物質汚染対処特別措置法施行状況検討会	環境省水・大気環境局	H27. 9. 1～H28. 3.31	坂本和彦
光化学オキシダント調査検討会	環境省水・大気環境局	H27. 9. 3～H28. 3.31	坂本和彦
PM2.5 排出インベントリ及び発生源プロファイル策定検討会	環境省水・大気環境局	H27.10.28～H28. 3.25	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)常時監視データ等に関する検討会	環境省水・大気環境局	H27.10.29～H28. 3.29	坂本和彦
水銀大気排出抑制対策調査検討会	環境省水・大気環境局	H27.11.11～H28. 3.31	坂本和彦
ばい煙排出抑制対策等調査検討会	環境省水・大気環境局	H27.12.10～H28. 3.25	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)発生源割合推計に関する検討会	環境省水・大気環境局	H27.12.15～H28. 3.29	坂本和彦
越境大気汚染・酸性雨対策検討会	環境省水・大気環境局	H28. 1.15～H28. 3.31	坂本和彦
南極環境実態把握モニタリング事業検討委員会	環境省自然環境局	H27. 9. 1～H28. 3.31	坂本和彦
環境技術実証事業運営委員会	環境省総合環境政策局	H27. 6.26～H28. 3.31	坂本和彦
大気環境モニタリング検討会	東京都環境局	H25. 4.15～H27. 4.14	坂本和彦
千葉県環境審議会	千葉県環境生活部	H25. 7.12～H27. 7.11	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)等大気汚染対策検討調査検討会	千葉県環境生活部	H27. 8.20～H28. 3.28	坂本和彦
川崎市環境審議会	川崎市環境局	H26. 3. 1～H28. 2.29	坂本和彦
中央環境審議会水環境部会	環境省水・大気環境局	H23.10.12～	木幡邦男
有明海・八代海等再生評価支援(有明海二枚貝類の減少要因解明等調査)業務にかかる検討委員会	環境省水・大気環境局	H27. 4.14～H28. 3.31	木幡邦男
底層DO及び沿岸透明度の評価・運用に関する検討会	環境省水・大気環境局	H27.12.28～H28. 3.31	木幡邦男
皇居外苑濠水環境管理検討会	環境省自然環境局	H27. 6. 9～H28. 3.31	木幡邦男
さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市環境局	H25. 5.27～H27. 5.26 H27. 8. 1～H29. 7.31	木幡邦男
春日部市環境審議会	春日部市環境政策推進課	H26. 5. 1～H28. 4.30	木幡邦男
加須市環境審議会	加須市環境安全部	H26. 7. 1～H28. 6.30	木幡邦男
光化学オキシダント調査検討会	環境省水・大気環境局	H27. 8.25～H28. 3.31	竹内庸夫
生物多様性かぞ戦略策定検討委員会	加須市環境安全部	H25. 9.17～	嶋田知英
足立区環境基金審査会	東京都足立区環境部	H26. 7. 3～H28. 3.31	嶋田知英
臭気判定士試験委員会	環境省水・大気環境局	H27. 6.10～H29. 3.31	梅沢夏実
さいたま市廃棄物処理施設専門委員会	さいたま市環境局	H26. 4. 1～H28. 3.31	松本利恵
微小粒子状物質(PM2.5)常時監視データ等検討会	環境省水・大気環境局	H27.10.22～H28. 3.29	米持真一
指定物質基礎情報等調査検討会	環境省水・大気環境局	H27.11. 1～H28. 3. 3	米持真一
微小粒子状物質等疫学調査研究検討会	環境省水・大気環境局	H27. 4. 8～H28. 3.28	長谷川就一
微小粒子状物質等疫学調査実施班	環境省水・大気環境局	H27. 4. 8～H28. 3.28	長谷川就一

委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
微小粒子状物質等大気汚染物質に係る毒性学調査研究に関する検討会	環境省水・大気環境局	H27. 5.11 ~ H28. 3.28	長谷川就一
行田市みどりの基本計画策定委員会	行田市都市計画課	H27. 2.18 ~ H28. 3.31	三輪誠
鳥獣被害対策優良活動表彰審査委員会	農林水産省農村振興局	H28. 1.18 ~ H28. 2.12	角田裕志
春日部市ごみ減量化・資源化等推進審議会	春日部市資源循環推進課	H26. 6.13 ~ H28. 4.30	渡辺洋一
小型電子機器等リサイクルシステム構築実証事業(再資源化事業者提案型)選定委員会	環境省廃棄物・リサイクル対策部	H27. 5. 1 ~ H28. 3.31	川寄幹生
市町村等による廃棄物処理施設整備の適正化推進事業検討委員会	環境省廃棄物・リサイクル対策部	H27. 9.14 ~ H28. 3.31	川寄幹生
鴻巣行田北本環境資源組合新施設建設等検討委員会	鴻巣行田北本環境資源組合	H27. 4. 2 ~ H28. 3.31	川寄幹生
ISO/TC147(水質)国際標準化対応委員会	経済産業省産業技術環境局	H27. 5.27 ~ H28. 2.29	堀井勇一
環境技術実証事業湖沼等水質浄化技術分野技術実証検討会	環境省水・大気環境局	H27. 6. 1 ~ H28. 3.31	田中仁志
排水管理のバイオアッセイ技術検討分科会	環境省水・大気環境局	H27.10.15 ~ H28. 3.31	田中仁志

(4) 研修会・講演会等の講師

(191 件)

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H27. 4. 20	大気・水質担当新任職員研修 「環境科学国際センターの業務紹介とセンターの活用について」	さいたま市	柿本貴志
H27. 4. 28	埼玉県市町村職員研修(前期課程) 「騒音振動測定実習」	さいたま市	濱元栄起
H27. 5. 7	彩の国いきがい大学伊奈学園 「埼玉県の大気環境」	伊奈町	梅沢夏実
H27. 5. 7	彩の国いきがい大学春日部学園 「埼玉の水環境」	春日部市	見島伊織
H27. 5. 8-9	NPO法人荒川流域ネットワーク 「標識アユ放流調査(入間川)」	川島町	金澤光
H27. 5. 9	アサガオ被害調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H27. 5. 9	第16回川沿い作品展 「川の生き物しらべ」	熊谷市	木持謙
H27. 5. 10	アサガオ被害調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H27. 5. 11	本庄市市民総合大学出前講座 「地中熱エネルギーの利用」	本庄市	濱元栄起
H27. 5. 14	彩の国いきがい大学東松山学園 「埼玉の湧水と名水」	東松山市	高橋基之
H27. 5. 14	総合教育センター小・中学校初任者研修 「埼玉の水環境」	環境科学国際センター	田中仁志
H27. 5. 15	総合教育センター小・中学校初任者研修 「埼玉県における光化学スモッグの現状とそれによる植物被害ーアサガオを使って光化学スモッグの影響を調べてみようー」	環境科学国際センター	三輪誠
H27. 5. 18	十文字学園女子大学講義 「埼玉の地理・歴史・文化 埼玉の川と魚(前期)」	十文字学園女子大学	金澤光
H27. 5. 19	総合教育センター小・中学校初任者研修 「私たちの生活と化学物質」	環境科学国際センター	野尻喜好
H27. 5. 24	西埼玉温暖化対策ネットワーク講演会 「埼玉県における河川水中のネオニコチノイド系殺虫剤」	川越市	大塚宜寿
H27. 5. 26	彩の国いきがい大学春日部学園 「埼玉の水環境」	春日部市	見島伊織
H27. 5. 27	早大本庄高等学院河川班総合学習事前講習会	本庄市	金澤光
H27. 5. 30	行田環境市民フォーラム 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響」	行田市	嶋田知英
H27. 6. 2	彩の国いきがい大学伊奈学園 「私たちの生活と化学物質」	伊奈町	野尻喜好

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H27. 6. 3	川越市立霞ヶ関西中学校総合的な学習 「川や用水の生き物調査」	川越市	金澤光
H27. 6. 5	鴻巣市立川里中学校校外学習 「地球のなりたち」	環境科学国際センター	濱元栄起
H27. 6. 6	上尾市環境推進大会 2015 記念講演 「子ども達の未来のために大気環境を考えるー大気汚染と地球環境問題ー」	上尾市	坂本和彦
H27. 6. 8	退職公務員連盟北埼玉支部出前講座 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	春日部市	長谷川就一
H27. 6. 10	本庄市立藤田小学校総合的な学習 「元小山川・小山川研究」	本庄市	金澤光
H27. 6. 11	NIES-JAMA大気環境・健康影響コンファレンスー都市大気汚染(PM2.5/Ox)対策と国環研-自工会の取組みー 「PM2.5の現状と課題」	東京都江東区	坂本和彦
H27. 6. 12	(一財)日本環境衛生センター建築物石綿含有建材調査者講習 「第5講座 その他石綿含有建材(成形板など)の調査」	高松市	川寄幹生
H27. 6. 13	NPO法人エコロジー夢企画 「アユ遡上状況調査(綾瀬川)」	綾瀬川(さいたま市)	金澤光
H27. 6. 15	上海大学特別講演 「土壌汚染及び植物による修復技術」	上海大学	王効挙
H27. 6. 17	本庄市立藤田小学校総合的な学習 「元小山川・小山川研究」	本庄市立藤田小学校	金澤光
H27. 6. 18	上海大学特別講演 「日本の環境保全型農業について」	上海大学	王効挙
H27. 6. 18	篠津川辺保全隊事業 「自然観察会」	桶川市	金澤光
H27. 6. 20	アサガオ被害調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H27. 6. 23	電源開発株式会社東日本支店出前講座 「石綿(アスベスト)の基礎知識」	川越市	佐坂公規
H27. 6. 26	春日部市庄和地区市民大学講座 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	春日部市	米持真一
H27. 6. 28	富士見市立水谷東公民館 「川の学習会(柳瀬川)」	富士見市	金澤光
H27. 7. 2	彩の国いきがい大学伊奈学園 「日常生活と水環境」	伊奈町	木持謙
H27. 7. 5	コープみらい 「田んぼの生きもの調査」	川島町	金澤光
H27. 7. 6	西部環境管理事務所 気象・気候に関する特別セミナー 「気象・気候のリモートセンシング及び将来予測」	川越市	原政之
H27. 7. 6	土壌・地下水汚染担当者研修 「浅層地下水の流向について」 「土壌汚染調査報告書に基づく汚染評価と汚染原因の解析ー汚染原因と汚染メカニズムの特定に必要な科学的因子ー」	環境科学国際センター	八戸昭一 石山高 濱元栄起 柿本貴志
H27. 7. 7	春日部市職員研修 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響」	春日部市	嶋田知英
H27. 7. 10	(一財)日本環境衛生センター建築物石綿含有建材調査者講習 「第5講座 その他石綿含有建材(成形板など)の調査」	東京都港区	川寄幹生
H27. 7. 10	羽生市立川俣小学校出前講座 「日常生活と水環境」	羽生市立川俣小学校	木持謙
H27. 7. 14	農業改良指導員研修会 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響」	環境科学国際センター	嶋田知英
H27. 7. 14	大気規制に係る測定方法等研究会(県大気環境課) 「ばい煙測定方法の概要、留意点及び測定データの読み方」 「石綿の測定方法の概要」「VOCの測定方法の概要」 「ダイオキシン類の測定方法に係る留意点及び測定結果の見方等」	環境科学国際センター	梅沢夏実 佐坂公規 大塚宜寿
H27. 7. 14	県立松山高等学校SS講義 「日常生活と水環境」	県立松山高等学校	木持謙
H27. 7. 18	県立川越女子高等学校SSG・生物部 「埼玉県内の外来エビ」	県立川越女子高等学校	金澤光
H27. 7. 18	生態園体験教室 「川の生き物で環境調査をしよう」	環境科学国際センター	田中仁志
H27. 7. 20	県民実験教室 「水の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	見島伊織 渡邊圭司

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H27. 7. 21	彩の国いきがい大学春日部学園 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響」	春日部市	嶋田知英
H27. 7. 22	東京リテック加工(株)職員研修 「生物多様性とその保全」	蕨市	嶋田知英
H27. 7. 26	県民実験教室「大気の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	梅沢夏実 佐坂公規
H27. 7. 28	異常水質事故に係る研修会 「異常水質事故に対するセンターの取組みの紹介」	上尾市	柿本貴志
H27. 7. 29	気象庁地域環境業務研修 「埼玉県における適応策への取り組み」	東京都千代田区	嶋田知英
H27. 7. 29	加須市環境教育研究部主任研究協議会出前講座 「私たちの生活と化学物質」	環境科学国際センター	野尻喜好
H27. 7. 29	夏休み特別企画 「サイエンスショー」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
H27. 7. 30	さいたま市小学校教員研修会 「生物多様性とその保全」	環境科学国際センター	嶋田知英
H27. 8. 1	生態園体験教室 「昆虫の標本を作ろう」	環境科学国際センター	嶋田知英
H27. 8. 1	元小山川水環境改善活動連絡会 「川の探検隊」	本庄市	金澤光
H27. 8. 2	NPO法人荒川流域ネットワーク 「標識放流アユ遡上調査及び魚類調査(都幾川)」	嵐山町	金澤光
H27. 8. 4	行田市小学校校長研修会 「生物多様性とその保全」	環境科学国際センター	嶋田知英
H27. 8. 5	夏休み特別企画 「サイエンスショー」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
H27. 8. 5	加須市環境政策課「浮野の里」水生生物観察会 「生き物から見た水環境～水生生物を用いた水質調査～」	加須市	田中仁志 木持謙
H27. 8. 5	桶川市中学校教員研修 「埼玉の水環境」	環境科学国際センター	渡邊圭司
H27. 8. 6	上尾市教育研究会出前講座 「埼玉の湧水と名水」	環境科学国際センター	高橋基之
H27. 8. 7	加須市環境政策課「浮野の里」自然観察会 「昆虫観察会」	加須市	嶋田知英
H27. 8. 8	飯盛川生き物探し隊 「魚類調査」	鶴ヶ島市	金澤光
H27. 8. 9	NPO法人エコロジー夢企画 「綾瀬川アユ成長状況調査」	さいたま市	金澤光
H27. 8. 22	NPO法人荒川流域ネットワーク 「高麗川アユ地曳網漁調査」	日高市	金澤光
H27. 8. 23	彩の国環境大学公開講座 「大気汚染ー局地汚染から越境汚染までー」	さいたま市	坂本和彦
H27. 8. 24	広域大学連携科目(武庫川女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪電気通信大学、大阪薬科大学、関西大学、藍野大学)社会教育プログラム 「健康環境論」	大阪大学	長谷川就一
H27. 9. 4	分析機器・科学機器展(JASIS2015) 「わが国における微小粒子状物質(PM2.5)汚染の現状と課題」	千葉市	坂本和彦
H27. 9. 5	NPO法人荒川流域ネットワーク 「入間川アユ地曳網漁調査」	川越市	金澤光
H27. 9. 6	身近な環境観察局新規応募者研修会 「生物調査」	環境科学国際センター	嶋田知英
H27. 9. 9	足立区環境ゼミナール 「生物多様性とその保全」	東京都足立区	嶋田知英
H27. 9. 12	彩の国環境大学修了生の会出前講座 「シカが生物多様性を低下させる!？」	さいたま市	角田裕志
H27. 9. 13	NPO法人荒川流域ネットワーク 「入間川アユ地曳網漁調査」	入間市	金澤光
H27. 9. 16	AS埼玉の見学会 「日本の水環境行政」	環境科学国際センター	木幡邦男
H27. 9. 20	渡良瀬遊水池まつりin加須 「身近な水の性質を調べてみよう」	加須市	田中仁志 渡邊圭司
H27. 9. 22	NPO法人荒川流域ネットワーク 「越辺川アユ地曳網漁調査」	鳩山町	金澤光

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H27. 9. 24	東松山市きらめき市民大学 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	東松山市	米持真一
H27. 9. 25	彩の国いきがい大学熊谷学園 「日常生活と水環境」	熊谷市	木持謙
H27. 9. 27	埼玉県地球温暖化防止活動推進員研修会 「観測データと気象シミュレーションから見えてくる過去・現在・将来の気象変動」	環境科学国際センター	原政之
H27. 9. 30	彩の国いきがい大学東松山学園 「私たちの生活と化学物質」	東松山市	野尻喜好
H27. 10. 1	International symposium on status and countermeasure of atmospheric fine particulate matters "Comparison of trace elements of PM2.5 collected in Japan, China and Jeju Island, and current status of PM2.5 in Japan"	Jeju, Korea	米持真一
H27. 10. 1	(一財)日本環境衛生センター建築物石綿含有建材調査者講習 「第5講座 その他石綿含有建材(成形板など)の調査」	広島市	川寄幹生
H27. 10. 3	NPO法人エコロジー夢企画 「綾瀬川アユ産卵場調査」	さいたま市	金澤光
H27. 10. 6	総合教育センター小・中学校初任者研修 「埼玉県における光化学スモッグの現状とそれによる植物被害ーアサガオを使って光化学スモッグの影響を調べてみようー」	環境科学国際センター	三輪誠
H27. 10. 6	公害防止主任者資格認定講習(騒音・振動関係) 「振動の性質・測定技術(振動関係)」「振動防止技術」	さいたま市	白石英孝 濱元栄起
H27. 10. 8	総合教育センター小・中学校初任者研修 「埼玉の水環境」	環境科学国際センター	田中仁志
H27. 10. 8-9	公害防止主任者資格認定講習(水質関係) 「汚水処理技術一般」「測定技術」	さいたま市	田中仁志 渡邊圭司
H27. 10. 9	総合教育センター小・中学校初任者研修 「廃棄物処理・処分における最終処分場の重要性」	環境科学国際センター	長森正尚
H27. 10. 10	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県の地球温暖化の実態とその影響ー温暖化の生物・農業・健康への影響ー」	環境科学国際センター	嶋田知英
H27. 10. 10	自然体験イベント 「里川保全活動～川のいきものみつけ隊～(男掘川)」	本庄市	金澤光 木持謙
H27. 10. 11	NPO法人エコロジー夢企画 「綾瀬川大曾根ビオトープ魚類調査」	八潮市	金澤光
H27. 10. 14	古谷公民館古谷女性セミナー 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	川越市	長谷川就一
H27. 10. 15	白岡高等学校1年生環境学習講演会 「地球温暖化(影響と対策)」	県立白岡高等学校	原政之
H27. 10. 15	The 11th Korea-Japan environment symposium "Evaluation of metals of PM2.5 in the East Asia focused on rare earth element" "Comparison of the regional bioaerosol from Saitama, Toyama and Jeju Island by the PCR-DGGE method"	Jeju, Korea	米持真一 田中仁志
H27. 10. 15-16	公害防止主任者資格認定講習(大気関係) 「燃焼・ばい煙防止技術」「測定技術」	さいたま市	松本利恵 佐坂公規 長谷川就一
H27. 10. 16	中国四国地方環境事務所 気候変動への適応策ブロック別研修会 「埼玉県における適応策への取り組み」	高松市	嶋田知英
H27. 10. 16	さいたま市シニアユニバーシティ東浦和校校友会出前講座 「地球のなりたち」	さいたま市	濱元栄起
H27. 10. 17	人間環境問題研究会 10月研究会 「埼玉県の温暖化・エネルギー対策～対策推進の基盤と隘路」	明治大学	脇坂純一
H27. 10. 22	彩の国いきがい大学東松山学園 「埼玉県の大気環境」	東松山市	梅沢夏実

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H27. 10. 22	保健医療政策課 山西省医療衛生技術研修 「PM2.5 の現状とCESSの研究的取組」	環境科学国際センター	米持真一
H27. 10. 22	公害防止主任者資格認定講習(ダイオキシン類関係) 「測定技術」	さいたま市	蓑毛康太郎
H27. 10. 23	埼玉県中部地域環境事務研究会出前講座 「埼玉県の大気環境」	環境科学国際センター	梅沢夏実
H27. 10. 23-24	NPO法人エコロジー夢企画 「綾瀬川アユ産卵場調査」	さいたま市	金澤光
H27. 10. 24	ふれあいファミリー実行委員会勉強会 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	川口市	米持真一
H27. 10. 24	彩の国環境大学基礎課程 「化学物質と私たちの暮らし」	環境科学国際センター	野尻喜好
H27. 10. 25	部落解放愛する会大里郡市協議会研修会 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響(生物・農業・健康)」	熊谷市	嶋田知英
H27. 10. 28	本庄市立藤田小学校総合的な学習 「元小山川・小山川研究」	本庄市	金澤光
H27. 10. 31	彩の国環境大学基礎過程 「健全な水循環と里川の再生」	環境科学国際センター	田中仁志
H27. 11. 3	あだち環境ゼミナール 「生態園観察会」	環境科学国際センター	嶋田知英
H27. 11. 4	彩の国いきがい大学伊奈学園 「日常生活と水環境～私たちに何ができるか～」	伊奈町	池田和弘
H27. 11. 5	春日部市環境保全リーダー養成講座 「埼玉県の大気環境」	春日部市	松本利恵
H27. 11. 6	吉見中学校第1学年PTA講演会 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	吉見町立吉見中学校	長谷川就一
H27. 11. 6	さいたま市建設系技術職員(専門)研修 「石綿との関わり合いがある行政職員のための石綿基礎講座」	さいたま市	川寄幹生
H27. 11. 7	彩の国環境大学基礎過程 「埼玉県の大気環境」	環境科学国際センター	梅沢夏実
H27. 11. 10	高齢者学級「あかつき学級」出前講座 「地球のなりたち」	さいたま市	濱元栄起
H27. 11. 10	狭山市立富士見集会所ふじみ寿大学 「中国の環境は今どうなっているか? 日本への影響は?」	狭山市	王効挙
H27. 11. 11	愛知県特定計量証明事業協会 「PM2.5 の現状とCESSの研究的取組」	環境科学国際センター	米持真一
H27. 11. 11	本庄市立藤田小学校総合的な学習 「元小山川・小山川研究」	本庄市	金澤光
H27. 11. 12	中国四国地方環境事務所 気候変動への適応策ブロック別研修会 「埼玉県における適応策への取り組み」	広島市	嶋田知英
H27. 11. 13	静岡市保健環境研究所研修会 「PM2.5 の現状と課題」	静岡市	米持真一
H27. 11. 13	全国環境研協議会関東甲信静支部大気専門部会 「中国および韓国済州島におけるPM2.5 に含まれる化学成分の 特徴と越境大気汚染の指標成分」	静岡市	米持真一
H27. 11. 13	全国大気汚染防止連絡協議会第61回全国大会 「PM2.5 への国内の取り組みに関する考察」	高松市	長谷川就一
H27. 11. 14	サイエンスショー 「- 196℃の世界」	環境科学国際センター	佐坂公規 米持真一
H27. 11. 17	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉県の大気環境」	熊谷市	梅沢夏実
H27. 11. 18	さいたま市水道局職員研修 「埼玉の水環境」	さいたま市	柿本貴志
H27. 11. 18-19	第5回日中水環境技術交流会in西安 「日本の水環境保護概論」 「日本における湖沼の流域管理と新たな事業場排水評価手法」 「日本における汚泥処理の対策と技術」	中国陝西省西安市	木幡邦男 田中仁志 王効挙
H27. 11. 19	東洋大学・学外講座 「埼玉県の水環境とその保全」	環境科学国際センター	木持謙

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H27. 11. 20	NPO法人士と風の舎勉強会 「地球温暖化(都市気候の変化)」	川越市	原政之
H27. 11. 22	鶴ヶ島市市民情報連絡会研修会 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響」	鶴ヶ島市	嶋田知英
H27. 11. 26	化学物質地域研修会(白岡) 「白岡工業団地周辺大気環境調査結果」	白岡市	茂木守
H27. 11. 28	川口市かわぐち環境大学 「地球温暖化(影響と対策)」	川口市	原政之
H27. 11. 28	川の国検定試験事前講習	さいたま市	田中仁志
H27. 12. 1	行田市森づくり環境再生実行委員会 「生物多様性とその保全」	行田市	嶋田知英
H27. 12. 1	化学物質地域研修会(東松山) 「東松山工業団地周辺大気環境調査結果」	東松山市	茂木守
H27. 12. 2	彩の国いきがい大学伊奈学園 「埼玉の湧水と名水」	伊奈町	高橋基之
H27. 12. 4	川越市環境保全連絡協議会環境小江戸塾 「私たちの生活と化学物質」	川越市	野尻喜好
H27. 12. 7	JICA オゾン及び微小粒子状物質(PM2.5)抑制のための計画策 定能力向上プロジェクト 「PM2.5 の発生源と生成メカニズム」	東京都渋谷区	坂本和彦
H27. 12. 7	立正大学シンポジウム 「埼玉県における光化学オキシダント(オゾン)とそれによる植物 被害に関する調査・研究」 「埼玉県環境科学国際センターにおける魚類に関する研究」	立正大学	三輪誠 金澤光
H27. 12. 7	埼玉県川の国アドバイザーフォローアップセミナー 「埼玉の水環境」	伊奈町	木持謙
H27. 12. 11	旭環境学習会 「生態系～絶滅危惧種・外来種～」	本庄市立旭小学校	角田裕志
H27. 12. 12	第6回低炭素まちづくりフォーラムin埼玉出前講座 「私たちの生活と化学物質」	さいたま市	野尻喜好
H27. 12. 14	中国大気環境改善のための日中都市間連携協力事業 2015 年 度重慶市技術交流会 「PM2.5 とO ₃ の生成メカニズム－VOCと関連して－」	中国重慶市	坂本和彦
H27. 12. 17	中国大気環境改善のための日中都市間連携協力事業 2015 年 度西安市技術交流会 「PM2.5 とO ₃ の生成メカニズム－VOCと関連して－」	中国陝西省西安市	坂本和彦
H27. 12. 18	中国荷澤学院特別講演 「日本の環境保全型農業と農村について」	中国荷澤学院	王効挙
H27. 12. 22	伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 「ソーシャルビジネス企 画・立案に際して解決すべき水環境問題」	環境科学国際センター	田中仁志
H27. 12. 26	富士山大気観測 2015 データ検討会 「富士山頂で日単位採取したPM2.5 に含まれる水溶性無機イオ ンと元素成分の特徴」	東京理科大学	米持真一
H28. 1. 7	彩の国いきがい大学東松山学園 「私たちの生活と化学物質」	東松山市	野尻喜好
H28. 1. 13	立正大学第18回環境気象学コロキウム 「都市の気候の変化」	立正大学	原政之
H28. 1. 13	彩の国いきがい大学東松山学園 「よく分かるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	東松山市	米持真一
H28. 1. 13	都幾川宮ヶ谷戸前堰道整備工事に係る技術指導(魚類調査)	ときがわ町	金澤光
H28. 1. 15	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉県の大気環境」	熊谷市	梅沢夏実
H28. 1. 18	新潟県酸性雨研究連絡協議会 酸性雪(雨)シンポジウム 「PM2.5 汚染の現状と課題-南関東-」	新潟大学	坂本和彦
H28. 1. 19	中国大気環境改善のための日中都市間連携協力事業 2016 年 EANET4都市合同訪日研修(2015 年度日中都市間連携事業) 「PM2.5 とO ₃ の生成メカニズム－VOCと関連して－」	新潟市	坂本和彦

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H28. 1. 21	平成 27 年度埼玉県環境科学国際センター講演会 「埼玉県の気候変動 ～過去と将来の気候変動とその影響に対する適応策～」 「浄化槽分野における温暖化対策 ～消費エネルギー削減と温室効果ガス発生抑制の両立～」 「埼玉県における地下温暖化 ～新たな環境変化と未利用エネルギーとしての活用～」	さいたま市	原政之 木持謙 濱元栄起
H28. 1. 23	彩の国環境大学修了者フォローアップ講座 「よく分かるPM2.5～初歩から発生源まで～」	環境科学国際センター	長谷川就一
H28. 1. 25	十文字学園女子大学講義 「埼玉の地理・歴史・文化 埼玉の川と魚(後期)」	十文字学園女子大学	金澤光
H28. 1. 26	日本製薬工業協会環境安全委員会第7回環境技術研修会 「国内におけるPM2.5の実態と対応」	東京都中央区	長谷川就一
H28. 1. 29	埼玉県みどりの再生活動報告会 「埼玉県における生物多様性保全への取り組み」	環境科学国際センター	三輪誠
H28. 1. 29	環境省環境調査研修所ダイオキシン類環境モニタリング研修 (専門課程)水質コース 「公共用水域のダイオキシン類について」	所沢市	養毛康太郎
H28. 1. 31	埼玉県地球温暖化防止活動新規推進員研修会 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響(生物・農業・健康)」	さいたま市	嶋田知英
H28. 2. 3	石綿飛散防止対策研修会(埼玉県大気環境課) 「石綿含有建材の見分け方」	さいたま市	川寄幹生
H28. 2. 3	彩の国いきがい大学伊奈学園 「私たちの生活と化学物質」	伊奈町	野尻喜好
H28. 2. 5	中部地方環境事務所 中部地方における気候変動適応策を推進するための勉強会 「埼玉県における適応策への取り組み」	名古屋市	嶋田知英
H28. 2. 5	NPO法人土と風の舎勉強会 「土壌について勉強しよう」	川越市	石山高
H28. 2. 9	(独)環境再生保全機構大気環境対策セミナー ～PM2.5の現状と今後の取組について～ 「PM2.5の排出実態について」「PM2.5の成分分析について」	神戸市	坂本和彦 長谷川就一
H28. 2. 10	彩の国いきがい大学東松山学園 「埼玉の湧水と名水」	東松山市	高橋基之
H28. 2. 10	草加環境推進協議会河川・自然部会視察研修会 「埼玉県における生物多様性保全への取り組み」	環境科学国際センター	三輪誠
H28. 2. 12	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉の地盤と環境」	熊谷市	濱元栄起
H28. 2. 14	NPO法人いろいろ生きものネット埼玉 第2回いきものフォーラム 「アライグマによる生態系影響」	さいたま市	角田裕志
H28. 2. 17	彩の国いきがい大学伊奈学園 「埼玉県の大気環境」	伊奈町	梅沢夏実
H28. 2. 18	埼玉県南部環境事務所研究会環境事務担当者研修会 「私たちの生活と化学物質」	上尾市	野尻喜好
H28. 2. 19	みどりの埼玉づくり県民提案事業活動報告会 「生態園観察会」	環境科学国際センター	嶋田知英
H28. 2. 19	環境省環境調査研修所大気分析研修 「PM2.5のサンプリング法および炭素成分分析法について」	所沢市	長谷川就一
H28. 2. 19	加須市くらしの会 未来のための環境講座 「地中熱エネルギーの利用」	加須市	濱元栄起
H28. 2. 24	第 28 回酸性雨東京講演会 「光学的方法によるブラックカーボン粒子濃度の全国調査」	法政大学	松本利恵
H28. 2. 25	県立中央高等技術専門校 「環境とエネルギー」	上尾市	濱元栄起
H28. 2. 27	羽生市環境講座 「埼玉県の悪臭規制」	羽生市	梅沢夏実

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H28. 2. 27	身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会 「光化学スモッグによるアサガオ被害調査結果報告」 「シカが生物多様性を低下させる!？」	環境科学国際センター	三輪誠 角田裕志
H28. 2. 27	ムサシトミヨ繁殖報告会 「ムサシトミヨ生息地下流の魚類相について」	熊谷市	金澤光
H28. 3. 4	(一財)日本環境衛生センター建築物石綿含有建材調査者講習 「第5講座 その他石綿含有建材(成形板など)の調査」	東京都港区	川寄幹生
H28. 3. 6	生態園体験教室 「絶滅危惧種を守ろうー希少野生植物「サワト ラノオ」の植え替え体験ー」	環境科学国際センター	三輪誠
H28. 3. 7	河川砂防課浸水対策合同勉強会 「地球温暖化(埼玉県への影響)について」	さいたま市	嶋田知英
H28. 3. 12	環境省関東地方環境事務所 関東気候変動適応策セミナー 「埼玉県における温暖化影響と適応策への取組」	さいたま市	嶋田知英
H28. 3. 12	第8回川のシンポジウム 2016-元小山川を取り巻く環境について 「元小山川の外来生物について」	本庄市	金澤光
H28. 3. 13	第 20 回荒川流域再生シンポジウム 「2015 年度のアユ遡上調 査の結果報告と越辺川水系の遡上調査結果」	嵐山町	金澤光
H28. 3. 18	日本エアロゾル学会 PM2.5 の化学特性に関する研究会研究セ ミナー 「PM2.5 の成分分析について」	名古屋市	長谷川就一
H28. 3. 25	宮城県生活環境事業協会検査員技術研修会 「高度処理型浄化槽における窒素・リン除去技術について」	仙台市	見島伊織
H28. 3. 28	環境ビジネス海外展開支援セミナー 「第5回日中水環境技術交流会in西安の概要報告」	さいたま市	木幡邦男

5.6 表彰等

5.6.1 表彰

全国環境研協議会関東甲信静支部 支部長表彰

白石英孝

表彰理由

過去33年間にわたって騒音振動に係る数多くの苦情に対処するとともに、低騒音化技術の開発をはじめとする様々な調査研究に携わってきた。また、事業者や市町村職員を対象とする技術講習会の講師を長年勤め、知識・技術の普及にも努めてきた。近年では、地盤の揺れ方と密接な関係をもつ地下構造の推定方法に関する技術開発に携わって多くの成果をあげ、その功績によって、平成21年度に社団法人物理探査学会から学会賞を授与されている。全環研協議会の支部活動についても通算29年間騒音振動専門部会に所属し、会員の求めに応じて情報提供や技術指導などを行ってきた。特に近年では、各自治体で経験豊富な職員の退職・異動が相次いでいることに鑑み、専門部会の会議の場で埼玉県調査事例を積極的に紹介し、会員への知識・技術の伝承に努めるなど、支部活動にも積極的に貢献している。

日本環境整備教育センター 浄化槽研究奨励・楠本賞

見島伊織

表彰理由

日本環境整備教育センターでは、浄化槽に係わる調査研究を奨励することを目的として、全国浄化槽技術研究集会において、研究発表されたものの中から優秀課題の選考を行っている。本件は、平成26年度第28回全国浄化槽技術研究集会において発表した「リン除去型浄化槽におけるリン除去性能向上のための基礎的検討」の研究内容が、浄化槽に係る技術の発展向上に寄与する優秀研究課題として評価され、表彰されたものである。

5.6.2 感謝状

第59回生活と環境全国大会長感謝状(平成27年度生活環境改善功労者)

細野繁雄

環境衛生事業の発展に関して多年にわたり献身し、顕著な功労があった。